

## 4 協働取組の促進のための業務

### (1) 自治体・協働コーディネーターのネットワークを活用した環境教育の推進

#### ア 中間支援をテーマにしたセミナーの開催

##### ① イベント名

- 地域循環共生圏づくり支援セミナー2024  
「環境とともに地域の経済(なりわい)・社会(人々の暮らし)をつなぐ地域循環共生圏づくりとは」

##### ② 日時

- 2025年1月27日(月) 13:45~16:15

##### ③ 会場

- ウィンクあいち 会議室 1308(愛知県名古屋市)

##### ④ 参加者

- 参加 37名(登壇者 5名、zoom参加 4名、YouTube ライブ配信視聴者 28名)

##### ⑤ プログラム

- あいさつ/地域循環共生圏とは 環境省中部地方環境事務所
- 基調講演「地域循環共生圏づくりにおいて大切なこと」  
NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 鬼沢 良子
- 講演/情報提供 地域経済循環分析について～地域循環共生圏づくりに向けて～  
株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長 佐原 あきほ
- トークセッション「“地域循環共生圏になっている”とはどういうことか？」  
パネリスト  
NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 鬼沢 良子  
株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長 佐原 あきほ  
一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長 堺 勇人  
中部大学国際ESD・SDGsセンター 准教授 古澤 礼太  
アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上 聡子  
コーディネーター: EPO 中部 原 理史



## ⑥開催案内チラシ

# 地域循環共生圏づくり支援セミナー 2024

## 環境とともに地域の経済(なりわい)・社会(人々の暮らし) をつなぐ地域循環共生圏づくりとは

ライブ配信：2025年1月27日(月)13:45～(16:15頃終了)

- ・ EPO 中部ウェブサイトから自由に YouTube 配信を視聴できます。  
→EPO 中部ウェブサイト：<http://www.epo-chubu.jp>
- ・ ライブ配信終了後も、EPO 中部ウェブサイト上の限定公開でアーカイブ配信します。
- ・ 登壇者へ質問等されたい方は、ライブ配信への zoom 参加をお申し込みください。  
→下記 URL または右の QR コードから zoom へ参加登録をしてください。  
【zoom 参加登録】<https://us02web.zoom.us/join/zoom/register/tZMtcuqorjMpGG9y8-2jq10EkjY7RfexD2sN>  
登録すると「@zoom.us」または「@epo-chubu.jp」のアドレスから登録されたメールアドレス宛てに招待メールが届きます。



1. ごあいさつ/地域循環共生圏とは 環境省中部地方環境事務所
2. 【基調講演】 地域循環共生圏づくりにおいて大切なこと  
鬼沢 良子 氏 (NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長)
3. 【講演 / 情報提供】 地域経済循環分析について～地域循環共生圏づくりに向けて～  
佐原 あきほ 氏 (株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長)
4. 【トークセッション】 “地域循環共生圏になっている” とはどういうことか？

パネリスト： 鬼沢 良子 氏 (NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長)  
佐原 あきほ 氏 (株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長)  
堺 勇人 氏 (一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事 / 事務局長)  
古澤 礼太 氏 (中部大学国際 ESD・SDGs センター 准教授)  
水上 聡子 氏 (アルマス・バイオコスモス研究所 代表)

コーディネーター： 原理史 (EPO 中部)

主催： 環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)



## イ 協働コーディネーターによる意見交換会の開催

### ①日時

- 2024年8月28日（水）13:20～16:20

### ②会場

- ウィンクあいち 会議室 1306（愛知県名古屋市中区）

### ③出席者

- 協働コーディネーター7名

茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま常務理事/事務局長
中里 茂	環境カウンセラー
三田村 佳政	合同会社ローカルSDクリエイション 社長
山田 勇	特定非営利活動法人わおん
吉田 喜美夫	特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター
寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表

- オブザーバー、事務局等9名

猪岡 貴光	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長
縄野 正衡	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
野田 武志	オブザーバー、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
武内 淳久	オブザーバー、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
尾山 優子	オブザーバー、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
鈴木 良壽	オブザーバー、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
清本 三郎	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
原 理史	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
富田 夏子	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

### ④協議項目

- 自己紹介と近況報告
- 話題提供1：中部地方環境事務所からの情報提供・共有等
- 話題提供2：協働コーディネーターから話題提供
- 話題提供3：EPO 中部から話題提供
- 質問タイム及び意見交換



## 参考) 協働コーディネーター意見交換会で提示された主な意見等

### 地域循環共生圏づくりと中間支援

- 地域循環共生圏づくりにおける中間支援の重要性を本会で再確認できた。中間支援主体の育成に向けた取組が必要とされている。
- 中間支援者／コーディネーターの活動は収益確保が難しく、自身も事業を展開しなくてはならないのが実情である。
- 地域づくりの中間支援は、住民の幸せ度を上げることを目指し、共感を形にする必要がある。

### 放置竹林の活用(※放置竹林の整備・活用等に取り組むコーディネーターが複数名いる)

- 地元産業の活性化には、地元資源の活用が重要である。
- 特に、竹は、持続可能な資源であり、プラスチックの代替品として有望であることから、竹の利用促進を図ることで、地元産業の活性化にも寄与する可能性を有しているのでは。

### 地域(活動)における課題等

- 地域活動や環境活動においても、経済性を考慮したソーシャルビジネス化が重要となっており、その勉強会等をEPOで開催してほしい。
- 地方では、就労の場不足等の問題と共に、交通手段・二次交通の問題が地域活性化の大きな障害となっている。また、地域の少子高齢化対策には移住政策と共に、地域住民が住み続けたいと思えるような、地域の活力向上策の両展開が必要である。

### そのほか

- 協働コーディネーターを新たに育成する必要がある。

13

## (2) 自治体・協働コーディネーターとの連携による実践的な取組（地域循環共生圏フォーラムの開催）

### ア 企画段階の協働プロセス

- 富山県でそれぞれ活動している2名の協働コーディネーターに、本業務の富山県内での開催への協力を依頼し、6月7日にオンライン打合せを実施し、富山県上市町で全2回の「地域循環共生圏フォーラム」を開催した。
- 8月1日に会場確認を行いつつ、協力いただける協働コーディネーターと企画内容の詳細について協議した。また、上市町の事業者を中心とした有志で構成されるハッピー上市会の協力を得て開催することが決定した。
- 9月26日に上市町役場を訪問するとともに、ハッピー上市会の9月会合に参加し、地域循環共生圏の概説とフォーラム企画内容の説明を行い、フォーラムへの協力・参画等を呼びかけた。
- 11月1日に、上市町在住の協働コーディネーターと共に町役場を再度訪問し、地域循環共生圏や本フォーラムについて説明し、副町長とハッピー上市会による挨拶登壇の依頼などを行った。
- このほか、フォーラム開催までのプロセスの中で、中間支援の立場で参画する協働コーディネーター2名により、町やハッピー上市会との接見、打合せ等を行ったほか、第2回フォーラムに登壇する地域住民4名（第1回フォーラムのグループディスカッションで提案されたローカルSDGs事業のアイデアを第2回フォーラムで発表する「チーム上市」メンバー）との打合せなどが地域側で自主的に行われた。

## イ 第1回 地域循環共生圏フォーラムの開催

### ①イベント名

- 地域循環共生圏フォーラム in 上市町「みんなで描く! “つながる” “めぐる” 上市町」  
第1回 ワークショップ編：上市の “つながる” “めぐる” をみんなで描く！

### ②日時

- 2024年12月7日（土）13：30～16：00

### ③会場

- カミール大ホール（富山県上市町）

### ④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 後援：上市町、上市町商工会
- 協力：ハッピー上市会
- EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ／一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）

### ⑤参加者

- 28名

### ⑥プログラム

- あいさつ 上市町 ハッピー上市会
- チェックイン 趣旨説明、自己紹介
- はじめに 環境省中部地方環境事務所課長補佐 縄野 正衡
- 問題提起「 “つながる” “めぐる” はなぜ必要？」 PEC とやま常務理事／事務局長 堺 勇人 氏
- 上市町における構想(案)事例  
「地域の未利用材や地域課題を地域資源に転換する/つなげることから地域循環共生圏づくりへ」  
株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役 茶木 勝 氏
- グループ・ワークショップ  
「上市の “つながる” “めぐる” アイデアを考えてみよう！」  
ファシリテーター：PEC とやま常務理事／事務局長 堺 勇人 氏



⑦開催案内チラシ



**地域循環共生圏フォーラム in 上市町**  
みんなで描く！  
「つながる、めぐる、  
上市町

**参加  
無料**

地域も、自然も、人々も、末長く豊かでいられる  
「つながり、や「めぐる、のある地域に。  
上市町でもそのような地域の未来像をみんなで描きたい。  
そんなフォーラム（全2回）を開催いたします。

[第1回] **12月7日 土**  
2024年

**13:30~16:00**

上市町まちなか交流プラザ 4階  
**カミールホール**

富山県上市町西中町 11 <http://www.comeal.com/access/>

**第1回  
ワークショップ編**

※第2回は、2025年2月22日（土）開催予定です。

## 「上市の「つながる、めぐる、を みんなで描く！」

- **ごあいさつ** 上市町  
ハッピー上市会  
環境省 中部地方環境事務所
- **上市の「つながる、めぐる、事例の紹介**  
[問題提起] 「つながる、めぐる、はなぜ必要？  
堺 勇人氏 PEC とやま常務理事 / 事務局長  
[上市町における  
構想（案）事例] 地域の未利用材や地域課題を地域資源に転換する  
／つなげることから地域循環共生圏づくりへ  
茶木 勝氏 株式会社ティール・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- **グループ・ワークショップ**  
上市の「つながる、めぐる、アイデアを考えてみよう！  
ファシリテーター：堺 勇人氏 PEC とやま常務理事 / 事務局長

---

**参加申込フォーム**（※第1回のみ）  
<https://forms.gle/YTBroEA69XiTTwez7>



**WEB** [epo-chubu.jp](http://www.epo-chubu.jp)  
<http://www.epo-chubu.jp>  
**f** @EPOchubu

★ 2025年2月22日（土）開催の  
「第2回フォーラム」については、  
裏面をご参照ください。

**EPO中部**  
環境省中部環境パートナーシップオフィス

主 催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）  
後 援：上市町 / 上市町商工会  
協 力：ハッピー上市会  
EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティール・ツリー・コミュニケーションズ / 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）

みんなで描く！  
つながる、めぐる、  
上市町

第2回 発表&ディスカッション編

つながる、めぐる、

地域循環共生圏を上市で考える！

日時：2025年2月22日（土）13:30～16:00

会場：上市町まちなか交流プラザ 4階・カミールホール

申込方法：第1回フォーラム開催日から参加申込を受付開始予定です。

プログラム（予定）

- **ごあいさつ** 上市町  
ハッピー上市会  
環境省 中部地方環境事務所
- **事例紹介**
  - ① **他地域の実践事例**  
「北信スマートテロワール～自立（律）分散型の地域循環共生圏づくりの試み」  
勝亦 達夫 氏 信州大学キャリア教育・サポートセンター講師
  - ② **上市で検討したアイデア**  
第1回フォーラムでのワークショップ結果をご紹介  
チーム上市（第1回フォーラム参加者より）
  - ③ **上市での構想（案）事例**  
（株）ティー・ツリー・コミュニケーションズによる  
地域循環共生圏につながる取組から（仮）  
茶木 勝 氏 株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- **パネルディスカッション**  
「みんなで描く！ つながる、めぐる、地域循環共生圏」  
ナビゲーター：堺 勇人 氏 PEC とやま常務理事 / 事務局長

.....

映画「夢みる給食」の上映会を、第2回フォーラムと同時開催予定です！

## ウ 第2回 地域循環共生圏フォーラムの開催

### ①イベント名

- 地域循環共生圏フォーラム in 上市町「みんなで描く! “つながる” “めぐる” 上市町」  
第2回 発表&ディスカッション編：住みつづけられる地域のあり方を “つながる” “めぐる” から考える!

### ②日時

- 2025年2月22日(土) 13:30~16:00

### ③会場

- カミール大ホール(富山県上市町)

### ④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)
- 後援：上市町、上市町商工会
- 協力：ハッピー上市会
- EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ/一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)

### ⑤参加者

- 34名

### ⑥プログラム

- あいさつ 上市町 ハッピー上市会
- はじめに/地域循環共生圏とは 環境省中部地方環境事務所 課長補佐 縄野 正衡
- 【①他地域の実践事例紹介】北信スマートテロワール～自立(律)分散型の地域循環共生圏づくりの試み  
勝亦達夫氏 信州大学キャリア教育・サポートセンター講師
- 【②上市での構想(案)事例】上市アグリパーク構想(仮称)で地域循環共生圏を描く  
茶木勝氏 (株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- 【③上市で検討したアイデア】
  1. 背景説明：PEC とやま常務理事/事務局長 塚勇人氏
  2. グループ発表：チーム上市
- ディスカッション「みんなで描く “つながる” “めぐる” 地域循環共生圏」  
ナビゲーター：PEC とやま 塚氏
- クロージング① EPO 中部から「上市ローカルSDGs への期待」
- クロージング② 講評・感想



⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏フォーラム in 上市町

参加無料

みんなで描く！  
つながる、めぐる、  
上市町

地域も、自然も、人々も、末長く豊かでいられる  
つながり、やめぐる、のある地域に。  
上市町でもそのような地域の未来像をみんなで描きたい。  
第2回フォーラムにぜひご参加ください。

[第2回] 2025年 2月22日 土  
13:30~16:00  
カミール4階 カミール大ホール

第2回  
発表 &  
ディスカッション編

富山県上市町西中町11 <http://www.comeal.com/access/>

「住みつけられる地域のあり方を  
つながる、めぐる、から考える！」

- **ごあいさつ** 上市町  
ハッピー上市会  
環境省 中部地方環境事務所
- **事例紹介**
  - ① 他地域の  
実践事例 「北信スマートテロワール～自立(律)分散型の地域循環共生圏づくりの試み」  
勝亦 達夫 氏 信州大学キャリア教育・サポートセンター講師
  - ② 上市で検討した  
アイデア 第1回フォーラムでのワークショップ結果をご紹介  
チーム上市 (第1回フォーラム参加者より)
  - ③ 上市での  
構想(案)事例 上市アグリパーク構想(仮称)で地域循環共生圏を描く  
茶木 勝 氏 EPO 中部・協働コーディネーター  
／(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役
- **ディスカッション** 「みんなで描く つながる、めぐる、地域循環共生圏」  
ナビゲーター：堺 勇人 氏 PECとやま常務理事/事務局長

参加申込フォーム  
<https://forms.gle/YTBroEA69XiTTwez7>

映画「夢みる給食」  
の上映会

主催：つながるごはん  
10:00上映開始(開場・受付9:30~)  
※上映会への入場は有料となります。

**EPO中部**  
環境省中部環境パートナーシップオフィス

主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)  
後援：上市町 / 上市町商工会  
協力：ハッピー上市会  
EPO 中部・協働コーディネーター：株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ / 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま)

### (3) 自治体・協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック

#### ア 地域循環共生圏づくりの活動評価手法の検討

##### (ア) 第1回活動評価手法検討ワーキングの実施

###### ①日時

- 2024年6月5日（水）13:00～15:30

###### ②会場/設営方法

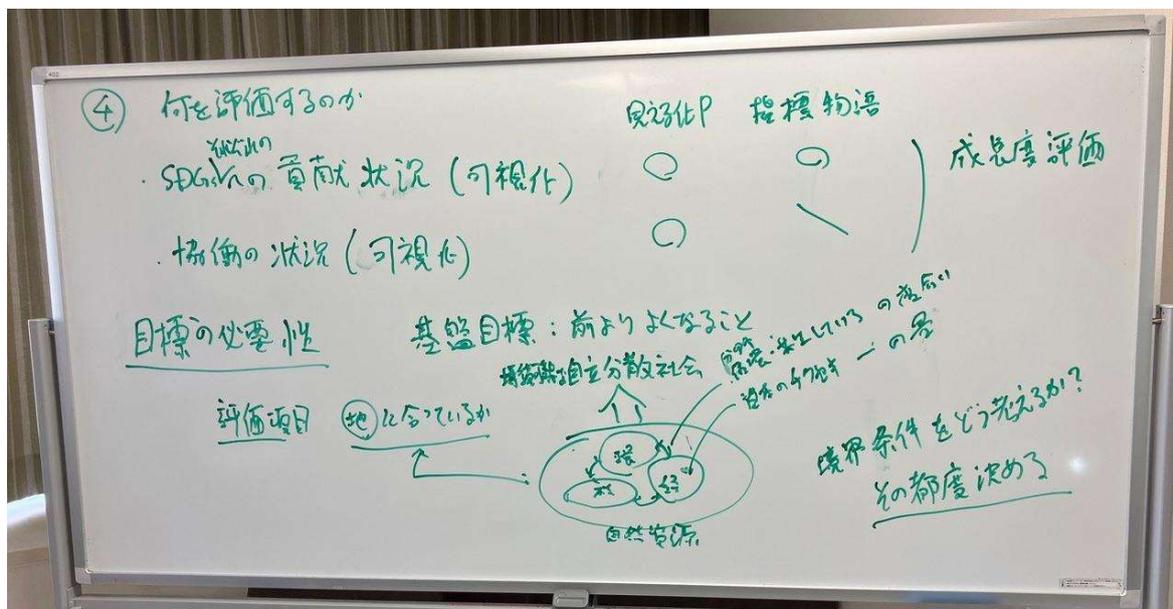
- 富山県民会館 402号室（富山県富山市内）
- オンライン：Webex ミーティング

###### ③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
塚 勇人	EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
縄野 正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO中部統括

###### ④協議項目

- 評価対象事例候補について参考インプット（地域循環共生圏など）
- 評価に用いるツール、これまで（第6期まで）の成果について
- 活動評価の枠組みについて



## (イ) 第2回活動評価手法検討ワーキングの実施

### ①日時

- 2024年9月18日(水) 13:00~14:45

### ②会場

- EPO 中部 (愛知県名古屋市)

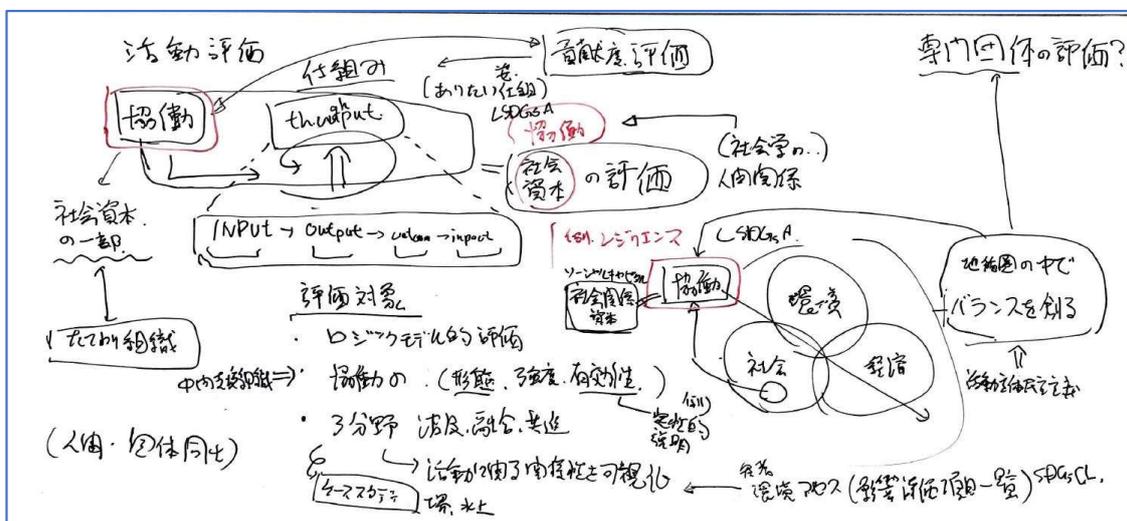


### ③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
猪岡 貴光	オブザーバー、環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長
縄野 正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括

### ④協議項目

- 活動評価の枠組みの整理について
- 評価方法の検討
- 評価に用いるツール活用について



## (ウ) 第3回活動評価手法検討ワーキングの実施

### ①日時

- 2024年11月12日(火) 13:00~15:30

### ②会場

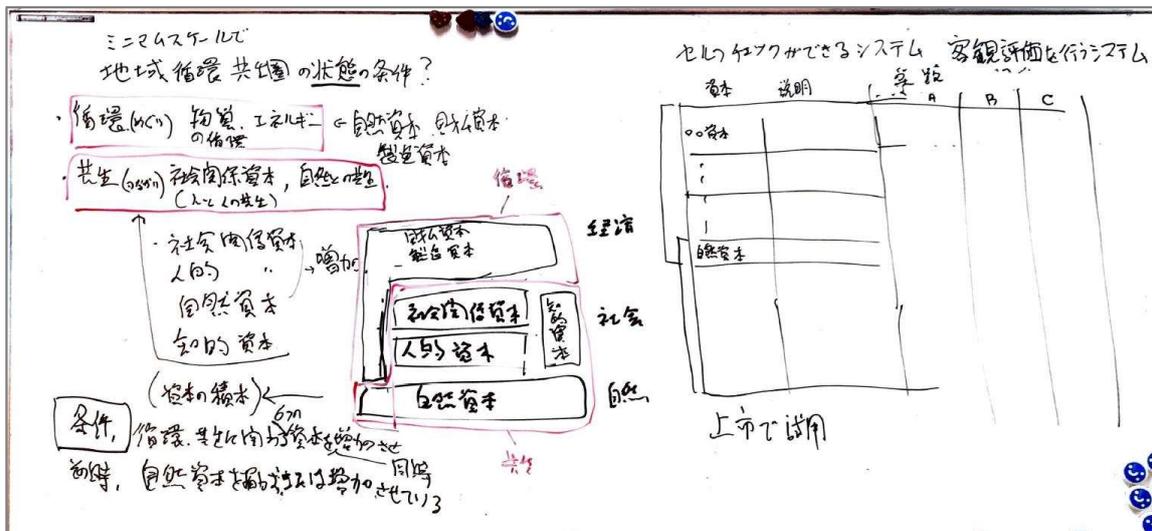
- 高棟東部コミュニティセンター(福井県坂井市)

### ③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括

### ④協議項目

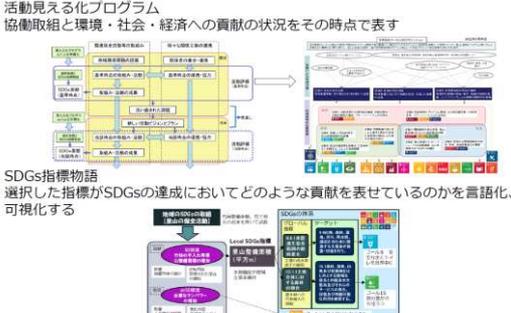
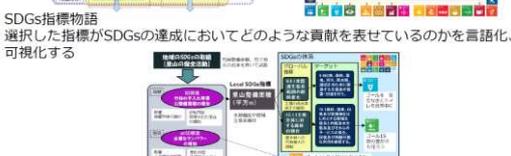
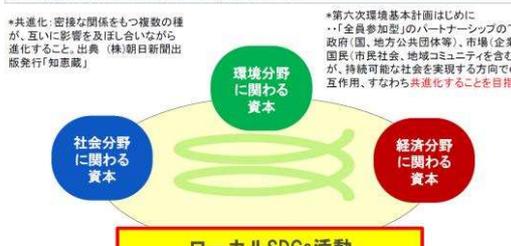
- 活動評価の枠組みの整理について
- 評価方法の検討
- 評価に用いるツール活用について



# イ 検討結果のフィードバック

- 活動評価手法検討ワーキングにおける検討結果として「活動評価チェックリスト」を作成し、協働コーディネーターの茶木氏（株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ）の取組2件で試行し、そのアウトプットを茶木氏にフィードバックした。

## ①検討結果まとめ

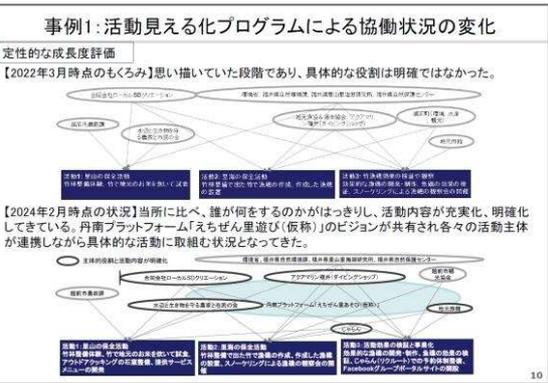
<p>環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） 2024年度 活動評価手法検討WGK</p> <p>活動評価検討WGKの「検討結果のフィードバック」</p>	<p>環境省EPO中部 活動評価手法検討WGK</p> <p>古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 真人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員 【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課 【事務局】清本三郎 中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） 統括</p> <table border="1"> <tr> <td>富山</td> <td>6月5日</td> <td>第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定</td> </tr> <tr> <td>名古屋</td> <td>9月18日</td> <td>評価実績を活用した事例検討</td> </tr> <tr> <td>福井</td> <td>11月12日</td> <td>事例フィードバックの検討と課題抽出</td> </tr> </table> <p>有識者によるワーキンググループにより、地域循環共生圏づくりの活動の評価手法を検討する</p>	富山	6月5日	第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定	名古屋	9月18日	評価実績を活用した事例検討	福井	11月12日	事例フィードバックの検討と課題抽出							
富山	6月5日	第6期評価手法実績共有、第7期検討計画策定															
名古屋	9月18日	評価実績を活用した事例検討															
福井	11月12日	事例フィードバックの検討と課題抽出															
<p>第6期までの実績 評価のため活動内容の可視化ツールを開発</p> <p>活動見える化プログラム 協働取組と環境・社会・経済への貢献の状況をその時点で表す</p>  <p>SDGs指標物語 選択した指標がSDGsの達成においてどのような貢献を表しているかを言語化、可視化する</p> 	<p>ローカルSDGs取組の評価「基準」</p>																
<p>ローカルSDGs取組の評価「基準」とは</p> <p>一般的な評価の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ある基準</b>に照らして物事の価値や成果を判断する行為を指す</li> </ul> <p>ある基準とは？価値観を伴う・・・地域循環共生圏の場合</p> <p>ローカルSDGs活動の評価を行う場合</p> <p>目指すところの地域循環共生圏、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の価値観を基準とする</p> <p><b>環境、経済、社会の三側面の統合</b></p>	<p>評価のための価値基準</p> <p>ローカルSDGs活動の効果が環境、社会、経済の各分野に波及し、それにより三つの分野における共進化が進み、環境、社会本、経済のそれぞれに関わる分野の資本が蓄積されること</p> <p>*共進化：密接な関係をもつ複数の種が、互いに影響を及ぼし合いながら進化する。出典（株）朝日新聞出版発行「知恵蔵」</p> <p>*第六次環境基本計画をはじめに「全員参加型」のパートナーシップの下、政府（国、地方公共団体等）、市場（企業等）、国民（市民社会、地域コミュニティを含む）が、持続可能な社会を実現する方向での相互作用、すなわち共進化することを指す。</p> 																
<p>ローカルSDGs活動を念頭に置いた三つの評価方法の提案</p> <p>達成度評価・貢献度評価・成長度評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度評価</td> <td>目標をどれだけ達成できたかを評価する。すなわち活動のアウトプット目標を具体的に設定し、それに対してどの程度達成できたかを評価する。</td> </tr> <tr> <td>貢献度評価</td> <td>ありがたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。すなわち目標をありがたい社会（ここでは地域循環共生圏）への貢献に置き、どのように貢献しているかを評価する。</td> </tr> <tr> <td>成長度評価</td> <td>取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。すなわち活動の成長を目標とし、成果の拡大や活動主体および関係者との協働連携が成長したかを評価する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>WKG議論より（原、2024）</p> <p>価値基準「環境、社会、経済の各分野に波及、共進化」には<b>貢献度評価</b>が必要 活動主体の「動機づけ」のためにも<b>成長度評価</b>が必要</p>	分類	内容	達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する。すなわち活動のアウトプット目標を具体的に設定し、それに対してどの程度達成できたかを評価する。	貢献度評価	ありがたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。すなわち目標をありがたい社会（ここでは地域循環共生圏）への貢献に置き、どのように貢献しているかを評価する。	成長度評価	取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。すなわち活動の成長を目標とし、成果の拡大や活動主体および関係者との協働連携が成長したかを評価する。	<p>達成度評価・貢献度評価・成長度評価は実践されているか</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>実践</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成度評価</td> <td>KPIなど、事業評価でよく使われている</td> </tr> <tr> <td>貢献度評価</td> <td>定性的な文章で記述されることが多い？</td> </tr> <tr> <td>成長度評価</td> <td>トレンドを見て言及がある？</td> </tr> </tbody> </table> <p>ローカルSDGs活動において達成度評価の実践はある（地球環境基金や地域循環共生圏プラットフォーム事業など）</p> <p>貢献度評価・成長度評価についてもより実践を考える必要があるのではないかと</p>	分類	実践	達成度評価	KPIなど、事業評価でよく使われている	貢献度評価	定性的な文章で記述されることが多い？	成長度評価	トレンドを見て言及がある？
分類	内容																
達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する。すなわち活動のアウトプット目標を具体的に設定し、それに対してどの程度達成できたかを評価する。																
貢献度評価	ありがたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する。すなわち目標をありがたい社会（ここでは地域循環共生圏）への貢献に置き、どのように貢献しているかを評価する。																
成長度評価	取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する。すなわち活動の成長を目標とし、成果の拡大や活動主体および関係者との協働連携が成長したかを評価する。																
分類	実践																
達成度評価	KPIなど、事業評価でよく使われている																
貢献度評価	定性的な文章で記述されることが多い？																
成長度評価	トレンドを見て言及がある？																

### 三つの評価分類に対する評価ツールの位置づけ

達成度評価・貢献度評価・成長度評価

分類	内容	活動見える化プログラム	SDGs指標物語	選定指標
達成度評価	目標をどれだけ達成できたかを評価する	-	-	目標を定めた場合は、達成状況を定量的に評価
貢献度評価	ありたい姿にどれだけ貢献できたかを評価する	活動内容が社会、経済、環境のどの分野か、SDGsのどのゴールに貢献しているかを可視化した定量的に評価	選定指標がSDGsのグローバル指標、ターゲット、ゴールに貢献しているかを可視化した定量的に評価【事例2】	貢献しているグローバル指標、ターゲット、ゴールにおける成果を定量的に評価【事例2】
成長度評価	取組がどれだけ成長、発展できたかを評価する	協働ネットワークが現状どのようになっているかを可視化、発展のポイントを比較して変化を示すことで成長度を定量的に評価【事例1】	-	複数の時点を比較して変化を示すことで成長度を定量的に評価【事例2】

(原、2024環境共生学会年次大会)



### 事例2: 選定指標とSDGs指標物語

定量的な貢献度評価、成長度評価

SDGs指標物語

選定指標	侵入竹林境界整備延長 (m)
指標	6.6.1、15.1.1
ターゲット	6.6、15.1
ゴール	G6、G15
基準2022年3月	0m
評価2024年2月	総延長120m

### 社会、経済、環境への「貢献度評価」の例(価値基準)

定性的な波及の評価

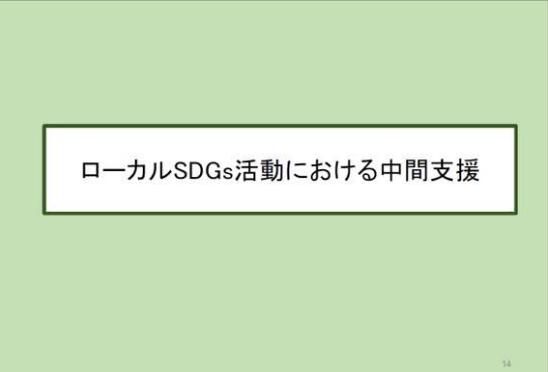
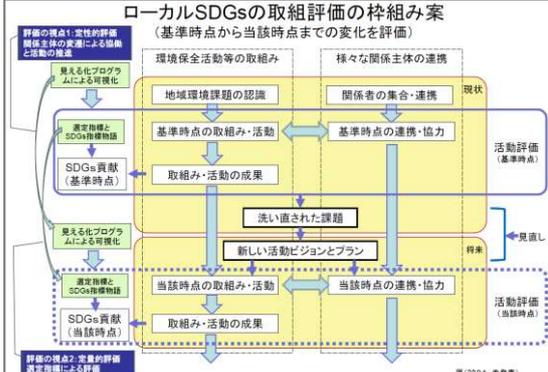
【活動見える化プログラム】「地域循環共生圏貢献」

経済	環境	社会
活動1: 活動団体の自治体負担軽減、活動団体の運営経費削減、ボランティアの活性化	活動1: 実施した山の保全、登山者利用の促進	活動1: 地域住民の普及啓発、地元産物消費の促進による地域経済の活性化
活動2: 活動団体の自治体負担軽減、活動団体の運営経費削減、ボランティアの活性化	活動2: 活動団体の自治体負担軽減、活動団体の運営経費削減、ボランティアの活性化	活動2: 活動団体の自治体負担軽減、活動団体の運営経費削減、ボランティアの活性化

定量的な波及の評価

【SDGs指標物語】で説明したそれぞれの分野の「選定指標」

指標	活動1	活動2
環境分野	山の保全活動	山の保全活動
経済分野	侵入竹林境界整備延長(m)	活動効果の検証と事業化
SDGs指標	6.6.1、15.1.1	【環境】
ターゲット	6.6、15.1	【社会】
ゴール	G6、G15	G4
基準2022年3月	0m	5名
評価2024年2月	総延長120m	計23名(2022年度10名、2023年度13名)



### 中間支援(例えば)

- 骨太の方針(共助)
  - 寄附の促進等に加え、NPOの行う事業を支援する中間支援組織を通じた支援を含め、社会課題解決に取り組む民間主体への支援を強化し、ソーシャルセクターの発展に取り組む。
  - 災害中間支援組織を含む被災者支援の担い手確保・育成、洪水・土砂災害・高潮の情報提供、要配慮避難者対策、地域の貴重な文化財を守る防災対策、気象防災アドバイザーや地域防災マネージャーの活用促進によるタイムライン防災、消防団を含む消防防炎力の充実強化に取り組む。

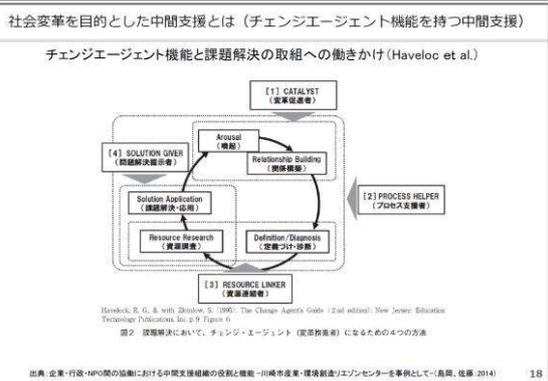
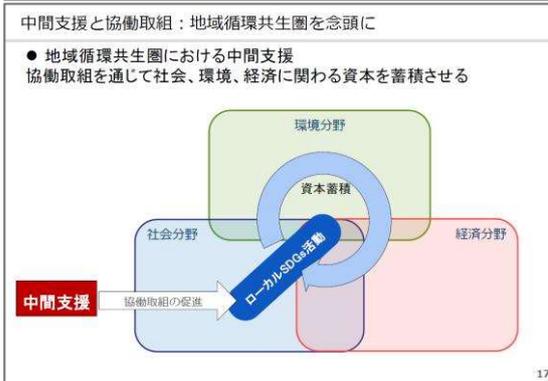
・トップダウンのつなぎとして考えられている  
・チェンジエージェント機能は意識されていない

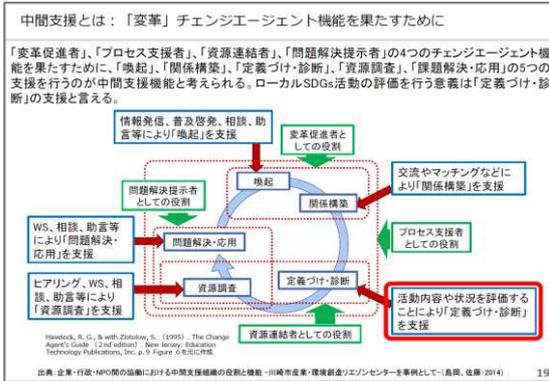
### 協働とは(EPO機能を念頭に)

- 環境教育促進法

「協働取組」とは、国民、民間団体等、国又は地方公共団体がそれぞれ適切に役割を分担しつつ対等の立場において相互に協力して行う環境保全活動、環境保全の意欲の増進、環境教育その他の環境の保全に関する取組をいう。

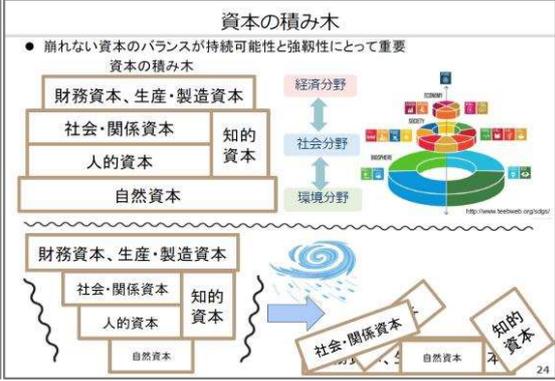
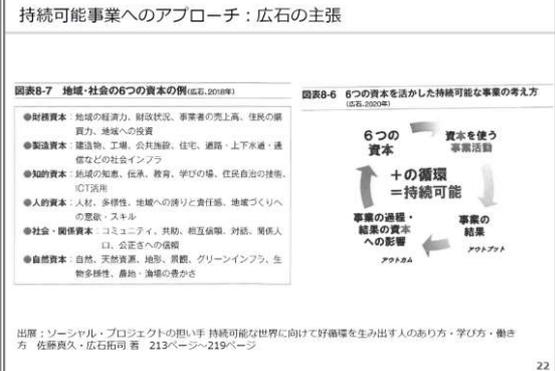
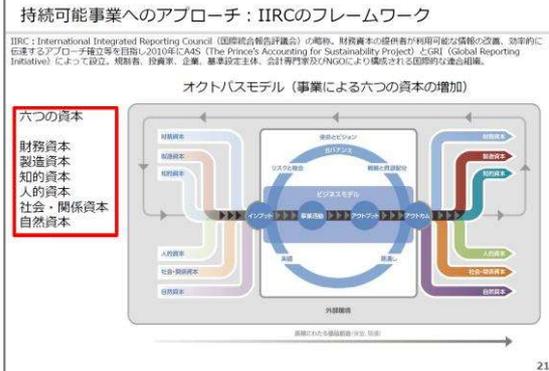
協働の意味: 例えば  
**社会関係資本を構築し運用すること**





ローカルSDGs活動の資本蓄積への貢献の評価

20



地域循環共生圏取組チェック (評価) 項目の検討

● その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、チェックリスト(案)

六つの資本	チェック項目	チェック	チェックの理由/理由
1 財務資本 (地域内 経済資本)	● 地域内での経済循環になっているか		その他 ( )
2 製造資本 (地域内 生産・製造資本)	● 地域にお金を落とすしているか		その他 ( )
3 知的資本 (地域共生 知的資本)	● 地域の文化、知恵などが活かされているか		その他 ( )
4 人的資本 (地域共生 人的資本)	● 地域の人材、多様性、地域への誇りと責任感、地域づくへの意欲、スキルが活かされているか		その他 ( )
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本)	● コミュニティ、共助、相互信頼、対話、関係人口、公正さへの信頼が活かされているか		その他 ( )
6 自然資本 (地域共生 自然資本)	● 自然、天然資源、地熱、風力、グリーンインフラ、生物多様性、森林、漁業の豊かさが活かされているか		その他 ( )

25

評価チェックリストの試行

● 富山県上市町の協働コーディネーター、茶木氏にヒアリングし2事例の取組について試行

里山の駅つぎの味蔵の韓国産メムプロジェクト

メグスリノキのお茶、九家茶の開発、販売

事例	チェック項目	チェック	理由
里山の駅つぎの味蔵の韓国産メムプロジェクト	1 財務資本		
	2 製造資本		
	3 知的資本		
	4 人的資本		
	5 社会関係資本		
	6 自然資本		
メグスリノキのお茶、九家茶の開発、販売	1 財務資本		
	2 製造資本		
	3 知的資本		
	4 人的資本		
	5 社会関係資本		
	6 自然資本		

26

## ②活動主体へのフィードバック（試行した評価チェックリストのフィードバック）

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行） 作成 250221

テーマ	富山県上市町 里山の駅つぎの味蔵の純国産メンマプロジェクト	概要	竹林整備で発生した伸びたタケノコを活用したメンマの製造販売	
活動状況	放置竹林という地域課題への対応が可視化されることで関係者への説得力が増し、持続的に活動が進んでいる。純国産メンマのストーリー化とブランディング化により販売は順調で活動は拡大傾向にある。			
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由	
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか	○	里山の駅つぎの味蔵の重要商品として地域外貨を獲得	
	●地域への投資になっているか			
	その他(地域所得の増加に貢献している)	○	事業を通じて、地域で携わる従業員等の所得に貢献している	
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか			
	●資源循環を目指しているか	○	地域の竹林からの資源を有効活用している	
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか	○	竹林整備で山林の保全が図られる	
3知的資本 (地域共生 知的資本): 地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	その他( )			
	●様々な場面での教育を進めようとしているか	○	伐採体験やメンマ製造見学など学校教育や社会教育のフィールドとして機能している。	
	●住民自治を取り入れようとしているか			
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか	○	「国産」メンマの伝統文化を維持継承している	
	●高等知見の導入をしようとしているか	○	地域外の事例を参考に試行錯誤で製造法知見を蓄積してきている。	
	●ICT活用を進めようとしているか	○	オンライン販売を実施している	
4人的資本 (地域共生 人的資本): 地域の多様な人々が共生できている	その他( )			
	●主体的・意欲的な人がいるか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している	
	●愛着・誇り・責任感のある人がいるか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している	
	●包摂社会を目指しているか			
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本): 地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	その他( )			
	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員の交流が生まれている	
	●相互信頼を醸成しようとしているか	○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員の交流が生まれている	
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか			
6自然資本 (地域循環共生 自然資本): 地域の自然・生物多様性が守られているか	その他( )			
	●生物多様性を守ろうとしているか	○	竹林整備で山林の保全が図られる	
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか			
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか	○	地域の竹林からの資源を有効活用している	
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。			

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト(試行) 作成 250224

テーマ	富山県上市町 メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売	概要	大岩山日石寺で祈禱日に伝統的に振る舞われるメグスリノキのお茶を健康茶を地元産品として商品化、販売	
活動状況	商品開発とホテル・土産物店等の販路の確保に成功し、ストーリー化、ブランディング化による事業が持続的に行われている。当初もくろんでいた地元産原料による製造については困難が伴い断念。また事業への関係者の巻き込みは十分ではなく、一企業の製造販売事業として活動。			
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由	
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか	○	富山県上市町に所在する製造販売企業の売り上げとして地元掲載に貢献	
	●地域への投資になっているか			
	●その他(地域所得の増加に貢献している)	△	製造販売を地域外の依存する割合が高く、十分な貢献になっていない	
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか	△	当初のもくろみと異なり地域外の原料に依存している	
	●資源循環を目指しているか	△	当初のもくろみと異なり地域外の原料に依存している	
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか			
	●その他( )			
3知的資本 (地域共生 知的資本):地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●様々な場面での教育を進めようとしているか			
	●住民自治を取り入れようとしているか			
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか			
	●高等知見の導入をしようとしているか			
	●ICT活用を進めようとしているか	○	オンライン販売を実施している	
●その他( )				
4人的資本 (地域共生 人的資本):地域の多様な人々が共生できている	●主体的・意欲的な人がいるか			
	●愛着・誇り・責任感のある人がいるか			
	●包摂社会を目指しているか			
	●その他( )			
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本):地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか			
	●相互信頼を醸成しようとしているか	△	当初のもくろみである、関係者の巻き込みを断念した。	
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか			
	●その他( )			
6自然資本 (地域循環共生 自然資本):地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか			
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか			
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか	△	当初もくろんだ地域資源の製造を断念	
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
●その他( )				
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の財務資本増加には貢献しているものの、当初のもくろみから離れ地域外の製造資本を用いており、人的資本、社会資本、自然資本の貢献も見られない。ローカルSDGs 活動としては不十分と評価される。地域課題への対応との関連性を可視化できず、関係者の巻き込みがうまくいかなかったとの当事者見解が重要な要因と考えられる。			

## ウ 成果まとめ冊子の作成

- 活動評価手法検討ワーキングの委員3名に、「(1) ア 中間支援をテーマにしたセミナーの開催」として実施した地域循環共生圏づくり支援セミナーのトークセッションに登壇いただき、それを記事として冊子にまとめた。冊子はEPO 中部ウェブサイトで公開した。  
掲載 URL: <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html>

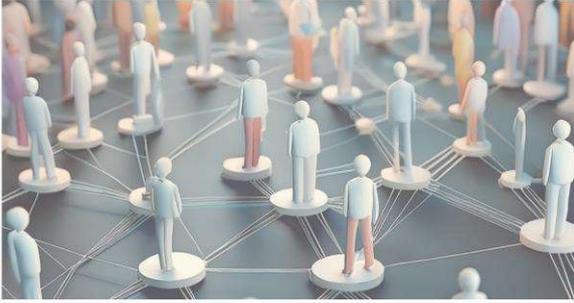
### 【作製・公開した冊子原稿】



EPO中部  
Environmental Partnership Office Chubu  
〒460-0003 名古屋市中区津島4-1-2 東栄ビル2F  
TEL: 052-218-8605 / FAX: 052-218-8606  
http://www.epo-chubu.jp/  
発行：2025年3月

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024  
「環境とともに地域の経済（かりわい）・社会（ひとの暮らし）をつなぐ地域循環共生圏づくりとは」  
トークセッションより

## “地域循環共生圏になっている” とはどういうことか？



### 地域循環共生圏とは何か？ 5人のパネリストと探る持続可能な地域づくりのヒント

2025年1月、EPO中部は「地域循環共生圏づくり支援セミナー2024」をオンライン開催しました。地域循環共生圏は地域の主体性を基本としつつ、地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会の統合的な向上を目指す、自立・分散型社会実現に向けた重要な概念です。

しかし、実際に地域が「地域循環共生圏になっている」とはどういうことなのでしょう。セミナーでは5人のパネリストをわかせ、地域循環共生圏が包含する多角的な側面を掘り下げながら議論するトークセッションを行いました。本誌はその内容をまとめています。

### 地域循環共生圏づくり支援セミナー2024について

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024  
**環境とともに地域の経済（かりわい）・社会（ひとの暮らし）をつなぐ地域循環共生圏づくりとは**

- ・ライブ配信（録画）日：2025年1月27日
- ・セミナー録画をEPO中部ウェブサイトにて公開中 ※自由にご視聴できます。  
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html>



■ スロガラム / ご登壇者

- ごあいさつ/地域循環共生圏とは  
環境省中部地方環境事務所
- 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおいて大切なこと  
鬼沢 良子 氏 (NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長)
- 【講演/情報提供】地域経済循環分析について～地域循環共生圏づくりに向けて～  
佐原 あきほ 氏 (株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長)
- 【トークセッション】「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか？  
パネリスト:  
鬼沢 良子 氏 (NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・理事長)  
佐原 あきほ 氏 (株式会社 価値総合研究所 ポリシーエンジニアリング事業部長)  
野間 人 氏 (一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長)  
古澤 礼太 氏 (中部大学国際ESD・SDGsセンター 准教授)  
水上 聡子 氏 (アルマサ・バイオエコモス研究所 代表)  
コーディネーター:  
原 史 (EPO中部)

次ページ以降に【トークセッション】のテキスト記事を掲載しています ※※※※  
鬼沢氏の講演内容、佐原氏による講演を基にしたセミナー全体を録画した動画や、環境省中部地方環境事務所による地域循環共生圏の解説資料、ここに掲載したトークセッションのスタンプ資料をEPO中部ウェブサイトにて公開しています。その他にもぜひご覧ください(本誌18頁)。

### トークセッション 「“地域循環共生圏になっている”とはどういうことか？」

## はじめに/ 今回の論点について

**原 史 (以下、原)** 皆さん、本日は「地域循環共生圏」になっているとはどういうことか? というテーマで、忌憚（きたん）なく議論していきたいと思ひます。



まず、地域循環共生圏の定義ですけれども、環境基本計画では「地域の主体性を基本とし、地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業を生み出し続けることで、地域課題を解決し続ける「自立した地域」をつくることと、それぞれの地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」の実現を目指すもの」とされています。

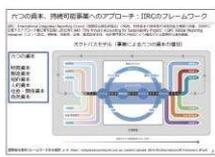


これを分解すると、ひとつには、自立した地域をつくるために、地域資源を持続的に活用

して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業を生み出し続けることであり、ここではこれを「ローカルSDGs活動」と呼ぶことにします。2つめは、地域の個性を活かしながら地域同士が支え合うネットワークを形成すること、3つめは、その前提として、自然資源を含めて地上資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実させていくことが必要とされています。特に、2つめ、3つめをふまえて、1つめのローカルSDGs活動が生み出される地域であってほしいという考えです。そこで、1つめのローカルSDGs活動を中心にトークを進めていきたいと思ひます。



ローカルSDGs活動はどうかを議論するためには、その評価のための指標基準が必要になります。EPO中部では、評価手法についてワーキングで検討し、活動の効果が環境・経済・社会の各分野に波及し、それぞれの分野の資本が地域に蓄積されることとして整理しました。



地域循環共生圏づくり支援セミナー2024  
トークセッション  
『地域循環共生圏になっている』とはどういうことか？

これに対して、RCCという国際組織のレポートに6つの資本という考え方があります。持続可能な社会を構築するためには、財務資本、製造資本、知的資本、人的資本、社会・関係資本、自然資本の6つの資本を使って活動し、それぞれの資本に対してその結果を蓄積していかなくてはならないとされています。そこで、ローカルSDGs活動においてもこのような価値基準を考へていきます。



では、6つの資本をどのように積み上げるのかということですが、SDGsの重要な概念にウェディンスケーキモデルというものがあります。それをふまえて、自然資本を一番下にして、その上その他の資本が載っているような構造が地域にあるようにしてはならないと考えました。

地域循環共生圏づくりの指標 (環境・経済・社会)	ローカルSDGs活動の指標
1. 環境資本: CO2削減率、資源循環率、自然資本蓄積率	1. 環境資本: CO2削減率、資源循環率、自然資本蓄積率
2. 製造資本: 生産性向上率、品質向上率、生産コスト削減率	2. 製造資本: 生産性向上率、品質向上率、生産コスト削減率
3. 知的資本: 人材育成率、イノベーション数、知識蓄積率	3. 知的資本: 人材育成率、イノベーション数、知識蓄積率
4. 人的資本: 労働力確保率、スキル向上率、健康増進率	4. 人的資本: 労働力確保率、スキル向上率、健康増進率
5. 社会・関係資本: 地域参加率、信頼関係構築率、協働推進率	5. 社会・関係資本: 地域参加率、信頼関係構築率、協働推進率
6. 自然資本: 自然資源保護率、生態系健全性、自然資本蓄積率	6. 自然資本: 自然資源保護率、生態系健全性、自然資本蓄積率

このような考え方も、6つの資本が増えていくような事業になっているかどうかを確認するチェックリストを、ローカルSDGs活動の評価ツールとして制作しました。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024  
トークセッション  
『地域循環共生圏になっている』とはどういうことか？

佐原あきほ (以下、佐原) 環境を土台に社会・経済が成り立つという環境基本計画やSDGsの考え方に即した整備は、妥当と思います。また、それら全体に通じるものとしてウェルビーイングという視点があります。地域循環共生圏を目指す際はそれぞれの地域が考えることになっていきますが、共通の考え方としてこのようなチェックリストがあると思います。

吉澤礼太 (以下、吉澤) 地域循環共生圏とはSDGsの達成を地域単位で考えていくことに近いと思いますが、その評価は難しいですね。私は森田川南をキーワードとして、SDGsも含めた地域循環共生圏を実現するためのネットワークづくりに取り組んでいます。そのときに、それぞれの活動が何に資するかだけでなく、それが地域づくりにどうつながっていくかが重要ではないかと考えています。とすると、活動だけでなく、成果に対する評価にもつながるのではないかと感じました。

堺勇人 (以下、堺) 地域循環共生圏では最終的なゴールは描かれています。そこに近づくために誰が何を基準にアクションを起こすかが重要です。ワークショップでは、そこに注目して6つの資本に分けて活動を評価する視点を整理しました。

水上聡子 (以下、水上) 活動を自己満足で終わらせないためにも、評価指標は重要です。アウトストだけでなく、アウトカムも評価に加えることで成果の評価につながります。

中間支援の役割

原 SDGs活動を促進するためには、中間支援や協働が重要な役割を果たさなければなりません。中間支援のあり方について、どのようにお考えですか。

堺 スラットフォームは複数あると思います。環境分野に強いプラットフォームも人権や社会・経済にも関心を持ち、他の分野を得意とする団体と協力し合うことでよりバランスのとれた活動ができるようになると思います。

鬼沢 関心事はそれぞれ違うので、活動を促すためには自身ごと化するきっかけをいかに提供できるかが重要になると思います。

水上 中間支援の立場から、各団体の強み・弱みを指摘することが重要です。環境活動では特に経済的な視点が抜けがちです。

経済の視点

原 地域循環共生圏では経済的な視点が抜け落ちやすい点についてどのようにお考えでしょうか。

佐原 地域資源を組み合わせながら最大限に活用し収益化できるようにしていく視点を持つと、環境・社会・経済に相乗的な効果をもたらすように思います。

吉澤 経済の視点は非常に重要です。特に地域に根差した産業や経済がサステイナブルな社会のキーになると感じています。

原 地域の産業が重要であるとのご指摘ですが、経済規模が大きい方が効果的であるように思いますが、いかがでしょうか。

佐原 環境基本計画には大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムからの脱却という考え方があります。そこを地域から変えていくという視点が地域循環共生圏に入っていると考えています。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024  
トークセッション  
『地域循環共生圏になっている』とはどういうことか？

吉澤 地域循環共生圏においては、課題解決だけにとらわれず、ポジティブに産業や経済を意欲していくべきではないかと思っています。

水上 経済が変わらないと脱炭素は進みませんがローカル経済の視点でも重要です。また、どのスケールの活動も大事なので内容によって選択し成果を出していけばいいと思います。しかし、ウェルビーイングは個人に関わるものであり、個人の視点は不可欠です。

ローカルSDGs活動とウェルビーイング

原 ローカルSDGs活動におけるウェルビーイングはどのように捉えればよいでしょうか。

鬼沢 個人のウェルビーイングがどれくらい増えたいかを測ることはできないと思いますが、地域への愛着や誇り、責任感を持つ人が増えることが重要です。やりがいや地域への愛着はアンケートをすればわかります。

水上 坂井市の市民協働事業には8つのウェルビーイング指標があり、誇り、愛着、自己実現、安全安心、人権等を数値化しています。

堺 地域循環共生圏は人々が幸せに暮らせる地域を目指すものであり、それは一人ひとりのウェルビーイングの集積であって、中心は人であること忘れてはいけません。

吉澤 流域治水のような地域のつながりのなかで信頼関係ができた、文化の共有によって愛着が生まれたりするのではないのでしょうか。そのためにも、6つの資本のなかの社会・関係資本が重要になると思います。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2024  
トークセッション  
『地域循環共生圏になっている』とはどういうことか？

まとめ

原 今日の話をまとめますと、地域循環共生圏とはローカルSDGs活動が生み出し続けられるということであり、それは地域の産業、生きがいやウェルビーイングをもたらすものであるべきです。そして、それは6つの資本をベースに考えていく必要があること。やり方はいろいろあるけれども、自分たちがやりたいと思える動機が大切で、自分たちの良いところ、悪いところを認識し、評価した上で相互依存のネットワークを形成することが重要であること。また、そこには出会いの機会の提供という中間支援の重要な役割が求められることでした。

自然資本を補植、回復、充実させていくという話への踏み込みが深かったかもしれませんが、示唆は出てきたのではないかと思います。

これでセッションを終わりたいと思います。ありがとうございました。



地域循環共生圏は、持続可能な社会を実現するための重要な鍵となります。地域循環共生圏の考え方を地域で共有し、具体的な取組を協働して取り組むことにより、皆さまの地域で持続可能な地域づくりが進められることを期待いたします。



## 5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### (1) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

#### ア 中間支援機能の担い手育成業務

##### (ア) 中間支援主体への支援

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に選定された中部エリアの3地域・6団体に対し、中間支援主体を通して地域循環共生圏づくりに関わる活動の加速化のための助言等の支援を行った。

団体	丹南 (ローカル SD クリエーション/エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま)	長野 (長野県 NPO センター/芋井地区住民自治協議会)	半田 (半田市/半田市地域循環共生圏推進協議会)
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/11 着手時打合せ・ヒアリングの日程調整について連絡メールを6団体へ送付し、日程が確定したい各団体と個別に連絡調整。</li> <li>4/30 キックオフミーティングの日程調整メールを6団体へ送付。</li> <li>4/26 に初回打合せ、中間支援主体ヒアリングを白山地区の公民館で実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/23 に初回打合せ、中間支援主体ヒアリングを中間支援団体事務所で実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/25 に初回打合せ、中間支援主体ヒアリングを市役所施設で実施。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/7 キックオフミーティングの日程確定のメール連絡を6団体へ送付。発表資料の共通書式を添付。</li> <li>5/21 活動団体の拠点予定施設で打合せ、関係施設の視察。</li> <li>WEB、SNS に 5/21 打合せ時の様子の動画を投稿しつつ、団体の紹介記事を掲載。</li> <li>活動団体から依頼のあった主催イベントの記事を SNS でシェアし、広報協力を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/22 活動団体の拠点施設で打合せ。</li> <li>WEB、SNS に 5/22 打合せ時の様子の動画を投稿しつつ、団体の紹介記事を掲載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/17 打合せと関係視察見学を実施。</li> <li>WEB、SNS に視察写真等を投稿しつつ、団体の紹介記事を掲載。</li> </ul>
5/30 中間支援ギャザリング(全国)			
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>6/26 キックオフの開催案内を送付、出席者について確認・連絡調整。</li> <li>5月分の月次報告の提出について、各中間支援団体からの相談・確認連絡に対応。</li> <li>エコツアープログラムの予約受付開始について SNS でシェアして広報協力。</li> <li>令和6年版白書に活動が掲載されたことを SNS で発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動団体からキックオフ発表資料を6/17に受け取り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動団体からキックオフ発表資料を6/4に受け取り。</li> </ul>
6/26 キックオフミーティング(中部ブロック)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>キックオフミーティング実施後、撮影画像を各団体に共有。SNS に開催の様子を投稿。</li> </ul>			
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援主体へ連絡:8月打合せの日程調整連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援主体及び10/23 中間共有会の会場との打合せの日程調整。</li> <li>7/16 中間支援主体と打合せ(キックオフの振り返りなど)。</li> <li>同日に中間共有会の会場との打合せを実施、中間支援主体同席。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援主体へ連絡:8月打合せの日程調整連絡。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援主体が投稿したエコツアープログラム SNS 動画をシェア。</li> <li>8/19 中間支援主体と打合せ(取組状況等の情報共有、広報手法の協議など)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会のエクスカージョンについて中間支援主体と協議・確認のための連絡のやり取り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8/26 中間支援主体と打合せ。学校、農業者との関係構築、液肥のPR方法や地域の認知度向上についてディスカッション。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の「開催案内」「参加者記入票」を送付。</li> </ul>			
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の出欠/送迎手配についてのメール打合せ。</li> <li>白書を読む会の広報開始(会場:越前市、三田村氏登壇等)→しらやま Facebook グループに投稿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の出欠者の確認、進行方法・エクスカージョン行程のメール打合せ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の出欠者の確認、宿泊(夕食)に関する確認の連絡。</li> </ul>

団体	丹南 (ローカル SD クリエーション/エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま)	長野 (長野県 NPO センター/芋井地区住民自治協議会)	半田 (半田市/半田市地域循環共生圏推進協議会)
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会に関する確認連絡。</li> <li>アウトドア関連企業との関係構築の相談。過去事業で接触のあった企業を紹介。関係構築依頼にあたり、詳細確認の必要を連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会エクスカージョンの調整・確認連絡等。</li> <li>終了後に草刈りバスターズ動画の送付あり。⇒ほか2地域等へ EPO から共有、御礼メールを送信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の出欠・支払関係の確認連絡等。</li> </ul>
10/23-24 中間共有会(中部ブロック)			
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の当日持参データを継続審査資料として送付依頼。</li> <li>打合せの日程調整連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せの日程調整連絡。</li> <li>月次報告で、名刺に環境省事業選定と記載したい旨の相談があり、全国事務局に確認のうえ回答。</li> <li>中間支援主体の名称変更(「認定」の追加)に関わる手続きの有無の問合せ連絡があり、全国事務局に確認のうえ回答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せの日程調整連絡。</li> <li>月次報告のファイルエラーを連絡して再提出を依頼。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/12 打合せを実施。今年度の残りの活動、次年度以降の取組計画等を情報共有。</li> <li>SH ミーティングの内容・実施方法について確認連絡。</li> <li>アウトドア事業者との協力連携について、詳細を活動団体・中間支援主体で確認し、整理した内容で EPO へ連絡いただくことを電話打合せ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/13 打合せを実施。今年度の残りの活動、次年度以降の取組計画等を情報共有。</li> <li>SHミーティングを2/1実施予定。内部会合で確定後、EPOへも連絡。</li> <li>12/23SHミーティングの会合イベント(2/1実施)について連絡。広報協力も実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/10 打合せを実施。今年度の残りの活動、次年度以降の取組計画等を情報共有。</li> <li>SH ミーティングの内容について確認連絡。</li> <li>活動見える化プログラム作成に協力依頼。入力方法、チャートの活用方法についてメールで連絡調整。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>SHミーティングの内容・日程について確認、連絡調整。</li> <li>プラットフォームクローバーについて質問連絡に対し、登録・投稿方法について回答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/1 開催 SH ミーティングの案内連絡があり、EPO スタッフも参加を申込。</li> <li>一般参加可能のため EPO の web サイト・SNS 等で広報協力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SH ミーティングについて開催日等の案内連絡に対し参加を返信。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>SH ミーティングの開催方法について電話打合せ、連絡調整。</li> <li>2/12SHミーティングにEPO 担当者もオンライン参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/1 開催 SH ミーティング(いもいりビングらぼ会合)に EPO 担当者オンライン参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/7SH ミーティングに EPO 担当者参加。</li> <li>提出物(チェックリスト)の回答方法について問合せ、中間支援ギャザリングについて問合せに回答。</li> </ul>
2/27-28 成果報告会:中間支援ギャザリング(全国)			

## (イ) 年度当初打合せ

- 4月に3地域(6団体)の年間支援計画・活動等についての打合せを行い、地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の年間計画、提出物等についての説明、今年度の活動内容・予定等についての確認を行った。
- あわせて、打合せでは、全国事務局から提示された設問項目をもとに、中間支援主体を対象にしたヒアリングも実施した。

選定団体名 ①:活動団体、②:中間支援主体	実施日/場所	ヒアリング項目(共通設定項目)
①エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、②合同社ローカルSDクリエイション	4月26日 越前市白山公民館	Q.0:基本事項/中間支援主体の体制、活動概要等の確認(①組織の人数、担当者の人数及び職位・年代等、②これまでにREO/EPOとの関わりの有無、③過去5年間に受けた補助金や助成金(名称と金額)、④活動テーマと活動地域、⑤活動発信web媒体)
①芋井地区住民自治協議会、②特定非営利活動法人長野県NPOセンター※ <sup>1</sup>	4月23日 長野県NPOセンター	Q.1:本事業を通じて、地域循環共生圏づくりの中間支援主体としてどうなりたいか? Q.2:この事業を通じて、共生圏づくりの中間支援主体としてレベルアップしたい点は?



**参考2) 2021年度実施の七尾、郡上の例**

**中間支援主体ヒアリングの設定項目 (全国共通)**

Q.0: 基本事項 / 中間支援主体の体制、活動概要等の確認

- ① 組織の人数、担当者的人数及び職位・年代等
- ② これまでにREO/EPOとの関わり
- ③ 過去5年間に受けた補助金や助成金(名称と金額)
- ④ 活動テーマと活動地域
- ⑤ 活動発信web媒体

Q.1: 本事業を通じて、地域循環共生圏づくりの中間支援主体としてどうなりたいか?

Q.2: この事業を通じて、共生圏づくりの中間支援主体としてレベルアップしたい点は?

Q.3: 中間支援により、活動団体が1年後にどうなっていることを目指すか(=1年間の支援目標)と、そのための支援策とは?

Q.4: 活動団体に中間支援を行っていくにあたっての不安要素は?

Q.5: 地方支援事務局に希望・期待する支援は?

Q.6: その他

**(ウ) ヒアリング結果シートの作成**

- 年度当初打合せにおけるヒアリングの実施後、所定のヒアリングシート (GEOC 提示のフォーマット) に聴取内容を整理・記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

**(エ) 中間支援主体に対するフォローシートの作成・提出**

- 地方環境事務所及び EPO による各選定団体への支援計画等を整理するフォローシート (GEOC 提示のフォーマット) を作成し、4月～6月期シートを7月に、7月～9月期シートを10月に、10月～12月期シートを1月に、それぞれ全国事務局へ提出した。

**(オ) ステークホルダーミーティングへの参加**

- 3地域それぞれが実施したステークホルダーミーティングに下記の通り参加した。

選定団体名 ①:活動団体、②:中間支援主体	実施日/場所	EPOスタッフ 参加方法	実施内容
①エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、②合同会社ローカルSDクリエーション	2月12日 越前市白山公民館 (福井県越前市)	オンライン	越前市白山地区周辺における地域資源を活用した体験活動の取組の現状及び今後の連携構築に向けた意見交換 (協議内容:体験アクティビティの企画運営にあたり、必要なプロモーション及び連携構築について)
①芋井地区住民自治協議会、②特定非営利活動法人長野県NPOセンター	2月1日 アソビーバ (長野県長野市芋井地区)	オンライン	「来て・知って・話して いもいりビングらぼ」 第1部 取組紹介 “やりたい”から、できたこと 第2部 事例研究 週一回ひらく小谷村の商店小網
①半田市地域循環共生圏推進協議会、②半田市	2月7日 半田市 リサイクルセンター (愛知県半田市)	会場参加	「地域内資源循環の拡大と地域課題の解決による持続可能な社会の形成」 ・イントロ:自己紹介、事例紹介(ソーラーシェアリング等) ・ワークショップ(「事業のタネ」のアイデア出し)



# イ キックオフミーティングの開催

## ①日時

- 2024年6月26日（水）13：15～16：15

## ②会場・運営方法

- 会場：ウインクあいち 1307 会議室（愛知県名古屋市中区）
- オンライン：Webex ミーティング

## ③出席者

区分	氏名	所属先	備考
【丹南】活動団体	岡山 秀昭	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	森 和恵	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	上野 和美	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	橋本 君代	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	横山 幸子	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	恒本 ひとみ	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
	塚崎 絹子	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	
堀江 浩美	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま		
【丹南】中間支援	三田村 佳政	合同会社ローカル SD クリエーション	
【長野】活動団体	羽田 一郎	芋井地区住民自治協議会	
	西澤 一幸	芋井地区住民自治協議会	
	山口 廣人	芋井地区住民自治協議会	
【長野】中間支援	吉田 喜美夫	特定非営利活動法人 長野県 NPO センター	
【半田】活動団体	市山 秀典	八洲建設株式会社	
	服部 亜紀	八洲建設株式会社	
	宮澤 賢治	半田・知多地域エネルギー株式会社	
	猪飼 幸輝	株式会社ピオクラシックス半田	
【半田】中間支援	山田 隆康	半田市市民経済部環境課	
	片山 高也	半田市市民経済部環境課	
環境省	佐々木 真二郎	環境省大臣官房地域政策課地域循環共生圏推進室	
	横山 皓己	環境省大臣官房地域政策課地域循環共生圏推進室	
	坪倉 陽平	環境省大臣官房地域政策課地域循環共生圏推進室	
	猪岡 貴光	環境省中部地方環境事務所環境対策課	
	縄野 正衡	環境省中部地方環境事務所環境対策課	
全国事務局	益田 大輔	環境再生保全機構地球環境基金部基金管理課	オンライン参加
	江口 健介	地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)	オンライン参加
事務局	清本 三郎	中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)	
	原 理史	中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)	
	富田 夏子	中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)	



#### ④実施内容

### 地域循環共生圏づくりキックオフミーティング (中部ブロック2024)

● **開催日**: 2024年6月26日(水) 13:15~16:15頃

● **会場**: ウィンクあいち 13階・会議室1307

➢ 名古屋駅から徒歩5分 <https://www.winc-aichi.jp/access/>

➢ 〒450-0002愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

#### ● 実施内容(プログラム)

1. ごあいさつ／地域循環共生圏とは(及び本事業について)
2. 参加団体による本事業の取組予定内容の発表(15分×3地域=45分)
3. 質問&交流タイム&休憩
4. ワークショップ:ステークホルダーの紹介&巻き込みアイデア出し  
ワーキング

1

### プログラム/タイムスケジュール (予定)

	プログラム	時間	登壇者等
	13:15~16:15頃 キックオフミーティング		
1	ごあいさつ	5分	・ 環境省地域循環共生圏室
	地域循環共生圏とは(本事業の意義・期待について)	15分	・ 環境省中部地方環境事務所
2	参加団体による取組計画・内容の発表	45分 (3地域×15分)	・ 中間支援主体:地域・活動団体の前説等 ・ 活動団体:取組発表
3	質問タイム	10分	
	交流&休憩タイム	20分	
4	ワークショップ: ステークホルダーの紹介&巻き込みアイデア出し	85分 (残り時間で実施)	・ 各地域(参加団体)別のグループでステークホルダー図作成ワーキング ・ ファシリテーター:EPO中部
	16:15頃~16:45 (予備/撤収)		
	交流タイムのつづき/事務局は後片付け等(17時施設厳守)		
	16:45頃には懇親会会場へ移動開始		
	17:00~19:00 (約120分) 懇親会		

2

## ウ 中間共有会の開催

### ①会議名

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
中部ブロック中間共有会 2024 in 長野・飯綱高原

### ②日時

- 中間共有会：2024年10月23日（水）13：15～16：15
- エクスカーション：2024年10月24日（木）9：00～14：30

### ③会場

- 中間共有会会場：アソビーバ 3階・会議室
- エクスカーション視察地：草刈りバスターズ現場、大谷地湿原、森の駅 Daizahoushi、いづなお山の発電所

### ④出席者

氏名	所属先	1日目 共有会	2日目 視察
橋本 弥登志	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
横山 幸子	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
恒本 ひとみ	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
堀江 浩美	エコグリーンツーリズム水の里しらやま	参加	-
三田村 佳政	合同会社ローカル SD クリエーション	参加	参加
西澤 一幸	芋井地区住民自治協議会	参加	参加
山口 廣人	芋井地区住民自治協議会	参加	-
中澤 敬雄	芋井地区住民自治協議会	参加	参加
羽田 一郎	芋井地区住民自治協議会	参加	参加
岸 豊	いもいりビングらぼ	参加	参加
村上 裕紀子	いもいりビングらぼ	参加	-
村田 江美子	いもいりビングらぼ	参加	参加
上島 ひとみ	いもいりビングらぼ	参加	参加
岡地 孝浩	地域おこし協力隊員	参加	参加
金箱 孝史	長野市芋井支所長	-	-
亀垣 嘉明	長野県 NPO センター	参加	参加
阿部 今日子	長野県 NPO センター	参加	参加
吉田 喜美夫	長野県 NPO センター	参加	参加
服部 亜紀	半田市地域循環共生圏推進協議会	参加	参加
白羽 佐千子	半田市地域循環共生圏推進協議会	参加	参加
片山 高也	愛知県半田市	参加	参加
勝亦 達夫	信州大学 キャリア教育・サポートセンター講師	参加	-
鬼沢 良子	NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長	参加	-
坪倉 陽平	環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室	参加	参加
清間 笑奈	環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室	参加	参加
鈴木 祥之	信越自然環境事務所	参加	-
秋本 紘子	信越自然環境事務所 戸隠自然保護官事務所	参加	湿原同行
井川 洋	信越自然環境事務所 戸隠自然保護官事務所	参加	湿原同行
縄野 正衡	中部地方環境事務所	参加	参加
大庭 みゆき	中部地方環境事務所	参加	参加
比留間 美帆	GEOC	参加	参加

氏名	所属先	1日目 共有会	2日目 視察
益田 大輔	ERCA	参加	参加
永井 亮	ERCA	参加	参加
清本 三郎	EPO 中部	参加	参加
原 理史	EPO 中部	参加	参加
富田 夏子	EPO 中部	参加	参加

## ⑤実施内容

### 1日目・中間共有会のプログラム

日時:10月23日(水)13:15~16:15 + エクスカーションの説明終了16:35頃

会場:アソビーバ 3階・会議室

### プログラム

1. ごあいさつ (10分)
  2. 3地域の取組状況・今後の展開予定等の報告・発表 (3地域×20分=60分)
  3. 先輩団体による取組紹介 (15分)
    - 北信スマートテロワール:勝亦 達夫 氏(信州大学 キャリア教育・サポートセンター 講師)
  4. 休憩&交流タイム (20分)
  5. ディスカッション (75分)
- (終了後)翌日のエクスカーション／草刈りバスターズの説明・注意等 (20分)

16:35~17:00 宿泊者はチェックイン

### 懇親会

日時:10月23日(水)17:00~19:00

会場:アソビーバ 本館2階・れんげの間

2



## ⑥エクスカーショ

### 2日目・エクスカーショの行程

日時: 2024年10月24日(木)09:00~14:30頃

予定時刻	行程	
09:00	アソビーバ 正面入り口前・駐車場 集合・出発	
	🚶約5分	
09:05~10:40	草刈りバスターズ現場 ➤ プログラム体験	
	🚶約5分	
10:45~11:15	大谷地(おおやち)湿原(草刈りバスターズの実施対象現場の一つ) ➤ 見学・散策	
	🚶約5分	
11:20~12:20	森の駅 Daizahoushi ➤ 視察車に合流してお弁当を受け取り(視察車内で食べてもOK) ➤ 昼食・休憩・周辺散策など	
	🚶約15分	
12:35~13:45	いいづなお山の発電所(長野森林資源利用事業協同組合) ➤ バイオマス発電施設等見学	
	🚶約30分	🚗(長野県NPOセンターの車で)約15分
14:30までに	長野駅 東口 到着・解散	アソビーバ 到着 自家用車で来場者は解散

4



## エ GEOC が主催する事業関連会議等への参加

- 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に関連する会議・会合等に、次表の通り、出席した。
- 中間支援ギャザリング（第1回、第2回ともに）では、第1回では中部エリアの3中間支援主体によるブレイクアウトルーム（振り返りディスカッション）のファシリテーターを、第2回では計4回のグループディスカッションのファシリテーターをEPOが務めた。

※ 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の関連会議以外の会合については、「7(2)全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化」に掲載。

区分	開催日	開催方法	会場	実施内容等（次第等から抜粋）
(中間支援主体対象キックオフM) 第1回中間支援ギャザリング	5月30日 ～31日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間支援主体の自己紹介</li> <li>● 【インプット①】地域循環共生圏の考え方と本事業の目的</li> <li>● 【インプット②】協働ガバナンスと中間支援機能</li> <li>● 振り返りディスカッション</li> <li>● 中間支援主体の活動紹介</li> </ul>
作業部会	第1回 9月4日	リアル	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4～8月までの振り返り、全国支援事務局視点の課題感の共有</li> <li>● グループワーク:3 地方で1つのグループをつくり情報を整理する</li> <li>● 継続の可否を判断するための視点説明</li> <li>● 次年度以降の業務運営改善ポイントについて意見交換</li> <li>● 今後の会議について</li> </ul>
	第2回 1月30日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国26案件の現状(開始当初からの変化など)について</li> <li>● 中間支援ギャザリングの企画ブラッシュアップについて</li> <li>● 次年度フォーマットについて</li> </ul>
EPO等共有会	5月15日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【議題1】共生圏づくり支援体制構築事業の全体像</li> <li>● 【議題2】採択事業の情報共有</li> <li>● 【議題3】審査プロセス振り返り</li> <li>● 【議題4】今後の予定</li> </ul>
事業検討会議	12月18日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【議題1】本事業として目指す姿</li> <li>● 【議題2】次年度の実施内容(参加団体向け)</li> <li>● 【議題3】次年度の実施内容(EPO等向け)</li> <li>● 【議題4】今年度中の予定</li> </ul>
(成果共有会) 第2回中間支援ギャザリング	2月27日 ～28日	リアル	TKP新橋 カンファレンスセンター (東京)	<p>1日目:1年間の取組(中間支援)を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オリエンテーション(導入)</li> <li>● 1年間の活動、中間支援主体としての取組発表</li> <li>● 意見交換</li> <li>● テーマ別交流</li> </ul> <p>2日目:今後の地域づくりのために必要な中間支援機能を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オリエンテーション</li> <li>● 今後に向けたディスカッション</li> <li>● 今後、取り組みたいこと宣言！！</li> <li>● 有識者からのコメント</li> </ul>

## オ 卒業団体のフォローアップ調査

- 12月24日にPF尾鷲（おわせSEAモデル協議会）を対象にしたオンラインヒアリングによるフォローアップ調査を実施した。
- ヒアリング結果をヒアリングシート（共通フォーマットあり）に整理・記入し、GEOCへ提出した。

## (2) 身近な自然資本活用に関する意見交換会等の開催

### ア 「SDGs AICHI EXPO 2024」ステージイベントとブース出展

#### ①日時

- ステージ企画：2024年10月10日（木）10：15～11：45
- ブース出展：2024年10月10日（木）・11日（金）・12日（土）10：00～17：00

#### ②会場

- 愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」（愛知県常滑市）

#### ③ステージ企画（中部地方環境事務所主催企画）での実施内容

- 「地球を救うアカデミー」WoW キツネザル
- 「ネイチャーポジティブの取り組み」
  - 亀山市産業環境部 生物多様性・獣害対策室 上野 篤史
  - 三栄林産株式会社 代表取締役社長 坂 成哉
  - 愛知県環境局環境政策部 自然環境課 大島 孝士
  - 加山興業株式会社 経営企画室 マネージャー 井上 智博
  - 環境省中部地方環境事務所 野村 環
  - 司会：EPO 中部 富田 夏子

#### ④出展ブースでの実施内容

- 中部地方環境事務所の出展ブースにおいて、ネイチャーポジティブが温暖化対策と同様に重要であることを来場者に説明するとともに、生物多様性を向上させる活動の結果として生産される食品などを私たちが選択（購入）することで、ネイチャーポジティブに貢献できることを伝える展示販売を行った。3日間で計86品が購入された。



#### 【展示販売産品一覧】

	地域	内容、商品名	内容	提供元	数量	価格
01	愛知県岡崎市	自然共生サイト「鳥川ホタルの里」で生態系を保全する農法で栽培「鳥川ホタルの米」	米	片岡喜幸	300g パック 40 袋	350
02	愛知県美浜町	砂浜の生態系を構成し、潮干狩りの重要な資源でもあるアサリを捕食してしまうツメタガイを使ったカレー「海音貝（うんね）カレー」	カレーの缶詰	美浜町地域ブランド化推進協議会	缶詰 48 個	760
03	福井県越前市	コウノトリを呼び戻すために、田んぼの生態系を保全する無農薬農法米を栽培し、それを酒米にした純米吟醸の酒粕 無農薬純米吟醸「かたかた」の酒粕	酒粕	まっきーの杜(農事組合 法人) 森	パック詰め 6 個	550
04	富山県上市町	放置竹林の幼竹を使って生態系の保全に貢献する国産メンマ「つるぎ竹菜」メンマ	メンマ	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	50 個	500

	地域	内容、商品名	内容	提供元	数量	価格
05	三重県 亀山市	山林と同じく地域の大切な資源である田んぼを守る活動から生まれたお米 低農薬・低化学肥料の特別栽培米 ※かめやま生物多様性共生区域認定「かぶとのおこめ」	米	三栄林産(株)かぶとの森テラス	300g/パック 22 個	500
06	三重県 亀山市	低農薬、有機肥料で栽培 水生生物を育み、自然体験を通じて小さな子どもから大人までが、地域コミュニティの場として活用している ※かめやま生物多様性共生区域認定 里のにぎわい「大地のおへそ」でとれたお米	米	里のにぎわい『大地のおへそ』	300g/パック 30 個	500

## イ 白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウムの開催

### ①イベント名

- 白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウム  
～白山の魅力を伝えるインタープリテーションを語る～

### ②日時

- 2025年2月9日（日）13：30～16：00

### ③会場

- 野々市市交遊舎(石川県野々市市)

### ④主催等

- 主催：環境省白山自然保護官事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 共催：白山手取川ジオパーク推進協議会、白山ユネスコエコパーク協議会
- 後援：石川県、白山市、野々市市

### ⑤参加者

- 41名

### ⑥プログラム

- 開会挨拶 中部地方環境事務所
- 「白山国立公園の魅力」 白山自然保護官事務所 自然保護官 綾部 芳秀
- 「白山手取川ユネスコ世界ジオパークの資源」  
白山手取川ジオパーク推進協議会 専門員 日比野 剛
- 基調講演「インタープリテーションは何の役に立つのか」  
金沢大学 融合研究域 准教授 山田 菜緒子
- 話題提供  
「国内のインタープリテーション事例」 株式会社自然教育研究センター 村上 友和  
「アメリカの国立公園とインタープリテーション」 獨協大学 講師 増田 由香子
- パネルディスカッション「インタープリテーションの白山エリアへの活用方法、課題」



⑦開催案内チラシ

# 白山エリアの 交流人口増加を考える シンポジウム



～白山の魅力を伝えるインタープリテーションを語る～

2025年2月9日(日)  
13:30～16:00

受付開始 13:00

会場：野々市市交遊舎

石川県野々市市二日市1丁目2-2

参加無料・定員80名[先着]

野々市市交遊舎の交通アクセス →



<https://www.city.nonoichi.lg.jp/soshiki/31/764.html>

## プログラム

- 開会挨拶 中部地方環境事務所
- はじめに 白山国立公園の魅力 綾部 芳秀 氏 白山自然保護官事務所自然保護官  
白山手取川ユネスコ世界ジオパークの資源 日比野 剛 氏 白山手取川ジオパーク推進協議会専門員
- 基調講演 インタープリテーションは何の役に立つのか 山田 菜緒子 氏 金沢大学融合研究域准教授
- 話題提供 国内のインタープリテーション事例 村上 友和 氏 株式会社自然教育研究センター  
アメリカの国立公園とインタープリテーション 増田 由香子 氏 獨協大学講師
- パネルディスカッション  
「インタープリテーションの白山エリアへの活用方法、課題」

## 参加申込方法

参加申込・お問合せはこちらから  
<https://forms.gle/VVB27GishrHpmMvFA>



詳細はEPO中部の  
ホームページへ

WEB [epo-chubu.jp](http://www.epo-chubu.jp)  
<http://www.epo-chubu.jp>

主催：環境省白山自然保護官事務所、中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)  
共催：白山手取川ジオパーク推進協議会、白山ユネスコエコパーク協議会  
後援(申請中)：石川県、白山市、野々市市

背景写真：白山国立公園 油坂 秋9月(白山自然保護官事務所)

### (3) グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業

#### ア 愛知県環境局主催「Let's エコアクション in AICHI」ブース出展

##### ①日時

- 2024年11月2日（土）10:00～16:00

##### ②会場

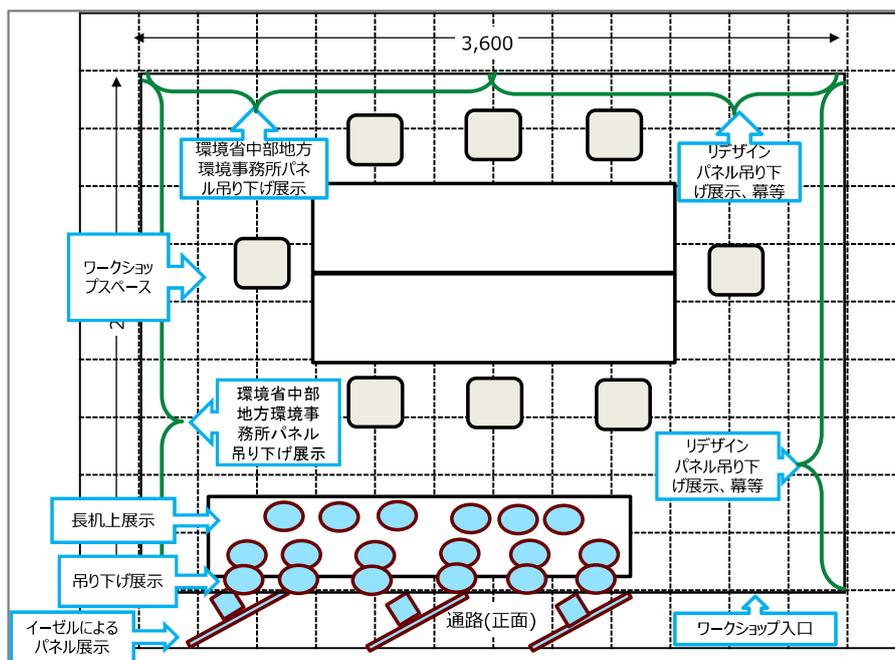
- 鶴舞公園（名古屋市昭和区）

##### ③参加者

- （ワークショップ参加者）42名

##### ④実施内容

- 一般社団法人リデザインプロジェクトと協力し、端布によるリース作成ワークショップを中部地方環境事務所のブース内にて実施した。
- 同時にプロジェクトで製作した作品、活動紹介パネル及び資源循環に関する啓発パネルを展示するなどにより来場者にサーキュラーエコノミーの普及啓発を行った。



## イ 環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティングの開催

### ①催事名

- 環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング  
「鳥羽エリアの未来を彩る私たちの環境アクション for2050 を考える」

### ②日時

- 2025年1月15日（水）13：30～16：00

### ③会場

- 鳥羽商工会議所 かもめホール（三重県鳥羽市）

### ④主催等

- 主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 協力：鳥羽市

### ⑤出席者

氏名	所属先等
上村 渡	鳥羽市環境課
大串 浩暉	鳥羽市農林水産課
岡田 彩瞳	鳥羽市企画財政課
小久保 怜美	鳥羽市農林水産課
後藤 洸	鳥羽市観光商工課
榊原 友喜	鳥羽市農林水産課
勢力 正太	鳥羽市観光商工課
恒吉 美智子	海島遊民くらぶ
中井 理江	鳥羽市環境課
中村 成太	鳥羽市環境課
村田 直	鳥羽市企画財政課
山田 純也	鳥羽市農林水産課
佐藤 大知	映像ディレクター
中村 欣一郎	鳥羽市長
縄野 正衡	環境省 中部地方環境事務所 課長補佐
山内 正照	環境省 中部地方環境事務所 環境影響審査調査官
小泉 大樹	環境省 中部地方環境事務所 資源循環課
柘植 規江	伊勢志摩国立公園管理事務所
朝緑 高太	株式会社ピリカ
小浦 嘉門	22世紀奈佐の浜プロジェクト
岩尾 豊紀	鳥羽市水産研究所
清本 三郎	EPO 中部
富田 夏子	EPO 中部

## ⑥実施内容

- あいさつ 鳥羽市長 中村 欣一郎
- あいさつ/本日の趣旨 環境省 中部地方環境事務所
- 環境省/国立公園の取組 伊勢志摩国立公園における「ゼロカーボンパーク」の取組について 伊勢志摩国立公園管理事務所
- 地域の取組事例  
 海洋プラスチック問題解決に向けた取組 株式会社ピリカ 朝緑 高太  
 鳥羽市における海ゴミ問題について 22世紀奈佐の浜プロジェクト 代表 小浦 嘉門  
 鳥羽市のブルーカーボン(藻場再生)の取組について 鳥羽市水産研究所 岩尾 豊紀
- グループ・ディスカッション  
 鳥羽エリアの「環境アクション for2050」を考えてみる！



## ⑦開催案内資料

<p>環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング2024</p> <h3>鳥羽エリアの未来を彩る 私たちの環境アクション for2050を考える</h3> <p>開催案内</p> <p>2025年1月15日(水) 13:30~16:00</p>	<p><b>開催の趣旨</b></p> <p>2024年1月に実施した鳥羽エリアのリスティナブルウォークスルーフをテーマにしたミーティングを行い、今年度も鳥羽エリアにおける持続可能な未来を築く。市民一人ひとりができる持続可能な行動などを促進するイベントを実施し、社会を創出し直す。</p> <p>このイベントには鳥羽市に隣接する伊勢志摩国立公園管理事務所も参加し、2050年に向けた鳥羽の取組について参加者の皆さんと一緒に考えてみる。</p>	<p><b>開催概要</b></p> <p><b>日時</b> 2025年1月15日(水) 13時30分~16時00分</p> <p><b>会場</b> 鳥羽商工会議所 3階・かもめホール (三重県鳥羽市大明東町1-7) <a href="https://gso.g/meps.com/wgcrnq24wjl667">https://gso.g/meps.com/wgcrnq24wjl667</a></p> <p><b>主催等</b> 主催:環境省 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) 協力:鳥羽市</p>
<p><b>プログラム</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに           <ul style="list-style-type: none"> <li>■ あいさつ 鳥羽市長 中村 欣一郎氏</li> <li>■ あいさつ/本日の趣旨 環境省 中部地方環境事務所</li> </ul> </li> <li>環境省/国立公園の取組 (10分)           <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 伊勢志摩国立公園における「ゼロカーボンパーク」の取組について 伊勢志摩国立公園管理事務所</li> </ul> </li> <li>地域の取組事例 (60分)           <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海洋プラスチック問題解決に向けた取組 株式会社ピリカ 朝緑 高太氏</li> <li>■ 鳥羽市における海ゴミ問題について 22世紀奈佐の浜プロジェクト 代表 小浦 嘉門氏</li> <li>■ 鳥羽市のブルーカーボン(藻場再生)の取組について 鳥羽市水産研究所 岩尾 豊紀氏</li> </ul> </li> <li>グループ・ディスカッション (60分)           <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 鳥羽エリアの「環境アクションfor2050」を考えてみる！</li> </ul> </li> </ol>	<p><b>参加方法</b></p> <p>参加申込フォームから <a href="https://forms.gle/EwsGARHAZt2j1CVA">https://forms.gle/EwsGARHAZt2j1CVA</a></p>  <p><b>問合せ先/連絡先</b></p> <p>環境省 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) TEL: 052-218-8605 / E-mail: info@epo-chubu.jp <a href="https://www.epo-chubu.jp">https://www.epo-chubu.jp</a></p> <p>鳥羽市 環境課 環境保全係 TEL: 0599-25-1147</p>	

## ウ 地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナーの開催

### ①イベント名

- 地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナーin 北陸

### ②日時

- 2025年1月29日(水) 13:30~16:30

### ③会場・運営方法

- 会場：福井銀行本店ビル2階ホール(福井県福井市)
- オンライン：webex ミーティング

### ④主催等

- 主催：環境省中部地方環境事務所、経済産業省近畿経済産業局、財務省北陸財務局、中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)、株式会社福井銀行、株式会社福邦銀行
- 共催：福井県

### ⑤参加者

- 228名(会場参加88名、Webex 140名)

### ⑥プログラム

- 開会挨拶 環境省中部地方環境事務所、財務省北陸財務局福井財務事務所
- 第一部 施策紹介等  
経済産業省近畿経済産業局  
環境省中部地方環境事務所  
福井県  
株式会社福井銀行
- 第二部 取組紹介  
「地域脱炭素に向けた再エネ事業と人づくり」井上小水力発電株式会社  
「自社およびサプライチェーンにおける脱炭素の取組み」福井鋳螺株式会社  
「脱炭素先行地域事業における地域課題解決事例」敦賀市  
「重点対策加速化事業における地域課題解決事例」越前市
- 第三部 パネルディスカッション テーマ「北陸における地域脱炭素の実現に向けて」  
パネリスト：井上小水力発電株式会社  
福井鋳螺株式会社  
敦賀市  
越前市  
株式会社福井銀行  
環境省中部地方環境事務所  
ファシリテーター：福井県
- 閉会挨拶 環境省中部地方環境事務所



## ⑦開催案内チラシ

地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

# 地域脱炭素の実現に向けた 事業者・金融機関向けセミナー

地域脱炭素と地域課題の同時解決の実現に向けて、事業者や事業者への  
支援を担う金融機関を対象にしたセミナーを開催いたします。



## 2025年 1月29日(水) 13:30~16:30

### プログラム

- 開会** ご挨拶 …… 環境省中部地方環境事務所、財務省北陸財務局福井財務事務所
- 第一部 施策紹介等**
- 施策紹介等情報提供 …… 経済産業省近畿経済産業局
  - 施策紹介等情報提供 …… 環境省中部地方環境事務所
  - 施策紹介等情報提供 …… 福井県
  - 施策紹介等情報提供 …… 株式会社福井銀行
- 第二部 取組紹介**
- 地域脱炭素に向けた再エネ事業と人づくり …… 井上小水力発電株式会社
  - 自社およびサプライチェーンにおける脱炭素の取組み …… 福井紙螺株式会社
  - 脱炭素先行地域事業における地域課題解決事例 …… 敦賀市
  - 重点対策加速化事業における地域課題解決事例 …… 越前市
- 第三部 パネルディスカッション**
- テーマ「北陸における地域脱炭素の実現に向けて」
- パネリスト 井上小水力発電株式会社  
福井紙螺株式会社  
敦賀市  
越前市  
株式会社福井銀行  
環境省中部地方環境事務所
- ファシリテーター 福井県
- 閉会** ご挨拶 …… 環境省中部地方環境事務所

### 参加方法

- 会場参加
- オンライン参加も可能です。

参加申込フォームの中で  
選択してください。  
<https://forms.gle/nquGgKMA5Qq7VUip6>



- 会場参加：福井銀行本店ビル 2階ホールへ当日お越しください。  
福井市順化1丁目1番1号 JR福井駅から徒歩約10分  
Googleマップ：<https://maps.app.goo.gl/kpXreJXzEUZNwg4r6>



- オンライン  
参加URLについては、開催日前日までに  
お送りします。

主 催：環境省中部地方環境事務所・経済産業省近畿経済産業局・財務省北陸財務局・  
中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)・株式会社福井銀行・株式会社福邦銀行  
共 催：福井県

## エ 中部共進化座談会の開催

### ①会議名

- 中部共進化座談会「中部からはじめる『共進化』の動きに向けて」

### ②日時

- 2025年3月7日（金）13：30～16：40

### ③会場

- ウィンクあいち 1304 会議室（愛知県名古屋市）



### ④出席者

#### ○総括コメンテーター

- ・中部大学副学長 中部高等学術研究所長 国際GISセンター長 教授 福井弘道

#### ○話題提供・ディスカッション

##### <1>環境を起点とする地域政策、地域経済社会の活性化の取組について

- ・中部大学 国際ESD・SDGsセンター准教授 中部ESD拠点事務局長 古澤礼太
- ・愛知学院大学教授 日本環境共生学会副会長・常務理事 森下英治
- ・名古屋大学教授 日本環境共生学会常務理事 林希一郎
- ・名古屋大学 附属持続的共発展教育研究センター教授 高野雅夫
- ・名古屋大学大学院環境学研究科特任教授 東海学園大学教授 杉山範子

##### <2>経済成長・経済発展、ビジネス、イノベーションの取組と環境課題の解決について

- ・名古屋市立大学大学院経済学研究科・経済学部教授 地域活性学会 鶴飼宏成
- ・中部圏社会経済研究所 企画調査部長 松田直己

### ⑤主催、事務局

- ・環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

### ⑥実施内容

開会趣旨説明	環境省中部地方環境事務所
環境政策の動向と「地域×共進化」	中部地方環境事務所 所長 小森 繁
話題提供① 話題提供(5 題)と質疑応答	<p>●論点説明 進行:中部大学副学長 福井弘道</p> <p>●話題提供 テーマ:環境を起点とする地域政策、地域経済社会の活性化 ・持続可能な地域のための人づくり:中部大学 古澤礼太 ・持続可能な社会づくりへの合意形成:愛知学院大学 森下英治 ・生態系サービスへの理解醸成:名古屋大学 林希一郎 ・再生可能エネルギー、持続可能な地域:名古屋大学 高野雅夫 ・自治体の取組支援:東海学園大学 杉山範子</p> <p>●質疑応答、その他補足的话题の提供</p>
話題提供とディスカッション② 話題提供(2 題)とディスカッション	<p>●話題提供 進行:中部大学副学長 福井弘道 テーマ:経済成長・経済発展、ビジネス、イノベーションの取組と環境課題の解決について ・脱炭素社会のアントレプレナーシップ教育:名古屋市立大学 鶴飼宏成 ・地域経済と環境エネルギー課題:中部圏社会経済研究所 松田直己</p> <p>●座談形式によるディスカッション 司会:中部大学副学長 福井弘道</p>
とりまとめ	「中部地域における共進化推進の今後の方向性について」の確認・共有
講評・終了挨拶	

#### (4) 地域循環共生圏創造事業の担い手の把握（地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の選定団体について）

##### (ア) 丹南

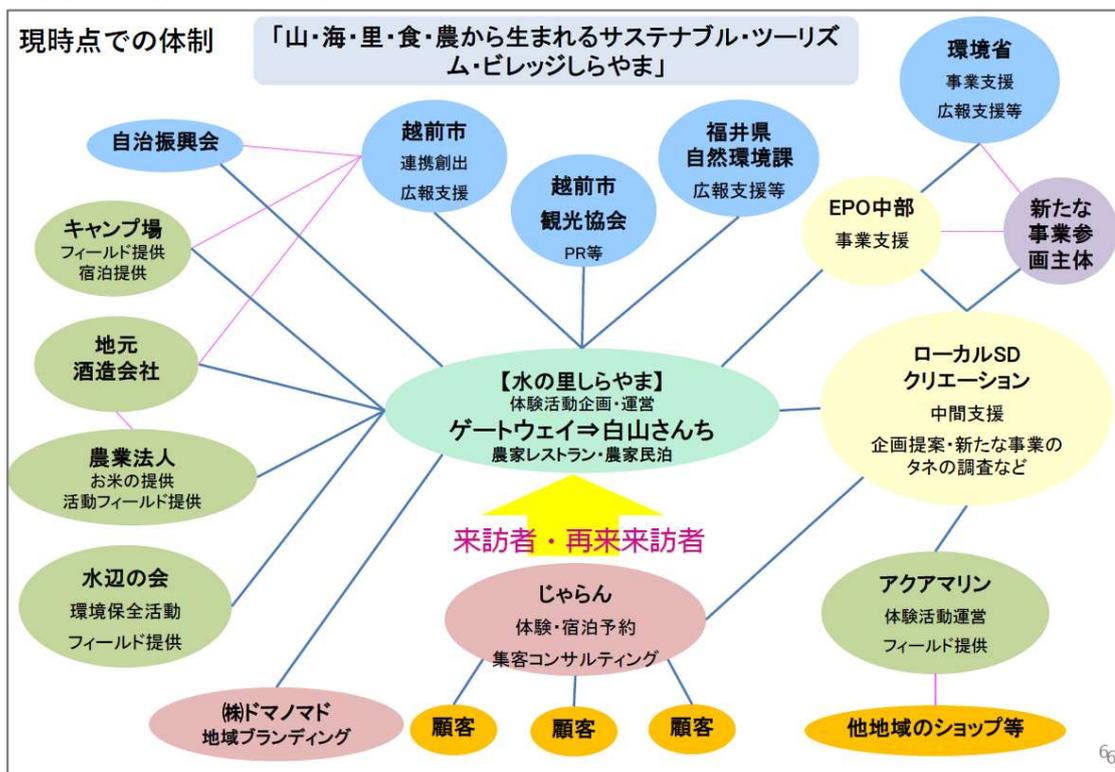
###### ① 中間支援主体：合同会社ローカルSD クリエーション

団体名	合同会社ローカルSD クリエーション
所在地	福井県越前市南小山町 5-19
活動地域	福井県全域
設立	令和2年4月24日
団体の目的	自然環境を基軸に多様な地域資源を発掘・創造・活用することで地域内外の人と人をつなぎ、地域の持続的発展を創造する多様な事業を展開し、持続可能な開発目標（SDGs）の実現を目指す。

###### ② 活動団体：エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま

活動団体名	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
所在地	福井県越前市安養寺町 5-3 越前市みどりと自然の村
活動地域	福井県丹南地域（越前市、鯖江市、越前町、南越前町）
設立	平成27年3月8日
団体の目的	白山地区内に存在する美しい自然、伝統文化、伝統産業や多様な農林業生産活動を活かした農山村滞在型余暇活動の推進を通して、地域の農林業や伝統産業の振興と活性化を図ることを目的とする。

###### ③ 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



## (イ) 長野

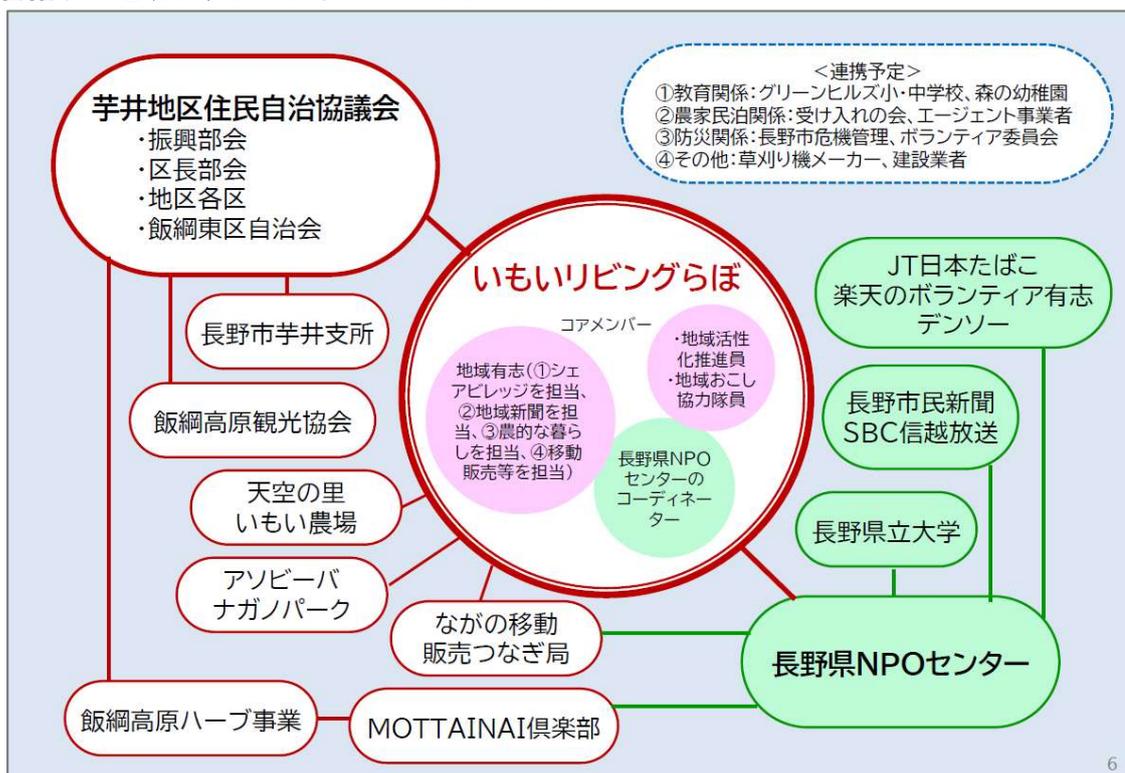
### ①中間支援主体：認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター

団体名	認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター
所在地	長野県長野市大字高田 1029-1
活動地域	長野県全域
設立	平成 11 年 4 月 22 日
団体の目的	(定款より) この法人は、長野県における市民社会の発展を目指し、民間非営利組織が地域や分野を越え幅広く活動するための基盤づくりを進めるとともに、企業や行政等多様な主体とのパートナーシップの形成促進と持続可能な地域づくりの推進を目的とする。

### ②活動団体：芋井地区住民自治協議会

活動団体名	芋井地区住民自治協議会
所在地	長野市大字桜 824 番地 3(仮設庁舎：大字桜 600 番地 6)
活動地域	長野市芋井地区 ※「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」(令和 3 年法律第 19 号)に基づく過疎地域(第 2 条、第 3 条、第 41 条～第 43 条に規定する過疎地域)に該当
設立	平成 20 年 3 月 15 日
団体の目的	芋井地区の住民相互の交流と親睦を図り、共通の利益の増進、生活環境の保持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりに寄与することを目的とする。

### ③目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



## (ウ) 半田

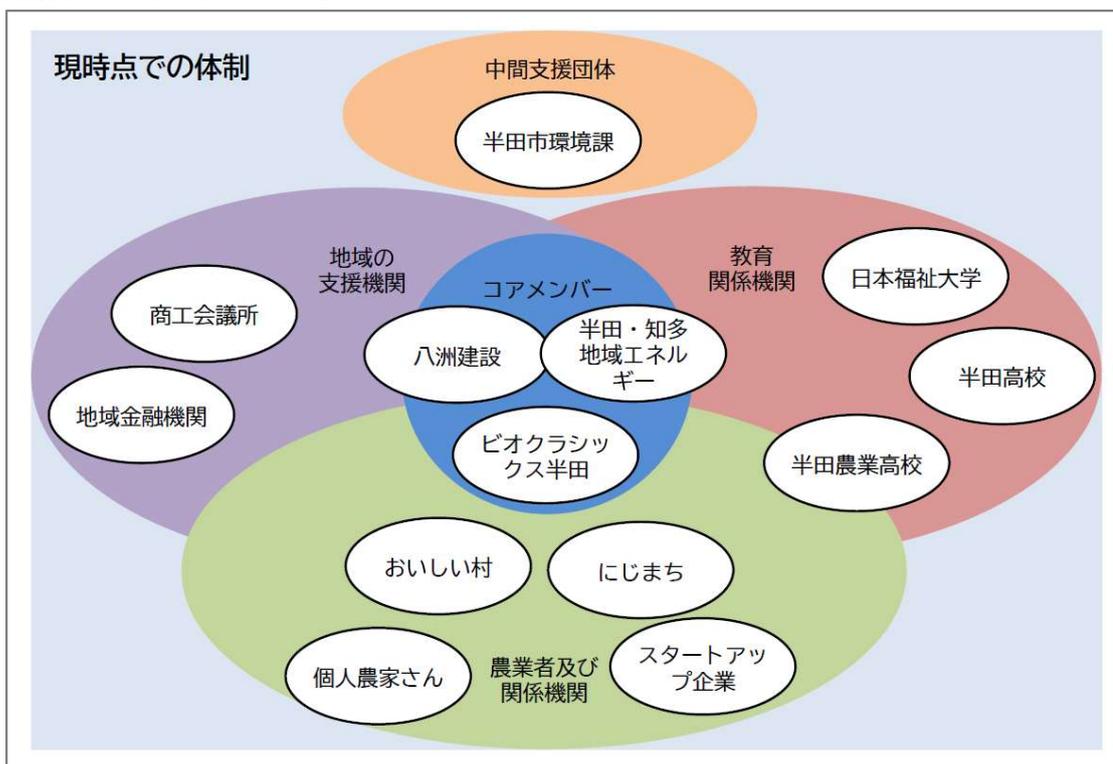
### ① 中間支援主体：半田市

団体名	愛知県半田市
所在地	半田市東洋町 2 丁目 1 番地
活動地域	愛知県半田市
設立	昭和 12 年 10 月 1 日

### ② 活動団体：半田市地域循環共生圏推進協議会

活動団体名	半田市地域循環共生圏推進協議会
所在地	愛知県半田市吉田町 1 丁目 60 番地
活動地域	愛知県半田市及びその周辺地域
設立	令和 6 年 5 月 17 日
団体の目的	半田市及び周辺地域における人材、資源・エネルギー、資金の地域内循環の拡大と同時に地域課題の解決を図り、持続可能な社会を形成する。

### ③ 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



## 6 中部地方 ESD 活動支援センター業務

### (1) 自然資本等の活用による ESD 促進 (ESD ダイアログの開催)

#### ① イベント名

- ESD ダイアログ 2024 「山と水と人間と～飛騨高山からの ESD 発信～」

#### ② 日時

- 1 日目 ESD ダイアログ：2024 年 11 月 22 日（金）10：30～15：15
- 2 日目 エクスカーション：2024 年 11 月 23 日（土）8：30～15：30

#### ③ 会場等

- 1 日目会場：飛騨高山まちの博物館 研修室（岐阜県高山市）
- 2 日目視察地：中部山岳国立公園の見学

#### ④ 主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター（環境省 EPO 中部）
- 後援：高山市 高山市教育委員会

#### ⑤ 参加者

- 1 日目 ESD ダイアログ：32 名、2 日目 エクスカーション：8 名

#### ⑥ プログラム

1 日目 ESD ダイアログ

○あいさつ 高山市 教育長 見山 政克、環境省中部地方環境事務所 課長補佐 縄野 正衡

○第一部 自然資産と ESD

基調講演 ①「中部山岳国立公園 ～自然の保全と活用～」

環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官 島 充明

話題提供 一般財団法人飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事 田中 裕

NPO 法人飛騨高山わらべうたの会 理事長 岩塚 久案子

一般社団法人ふるさと体験飛騨高山 事務局長 鈴木 仁孝

基調講演 ②「自然資源を活かした ESD と地域づくり」

信州大学教育学部 准教授 水谷 瑞希

○第二部 ESD 活動報告

高山市立三枝小学校 4 年生のみなさん

高山市立朝日中学校 1 年生のみなさん

岐阜県立高山工業高等学校 建築インテリア工学科主任 梶井 真也

○第三部 パネルディスカッション

パネリスト：高山市教育委員会 安井 慶一

環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官 島 充明

一般財団法人飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事 田中 裕

NPO 法人飛騨高山わらべうたの会 理事長 岩塚 久案子

一般社団法人ふるさと体験飛騨高山 事務局長 鈴木 仁孝

コメンテーター：信州大学教育学部 准教授 水谷 瑞希

コーディネーター：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史



⑦ エクスカーション

2日目 エクスカーション   11月23日(土) 8:30~15:30 中部山岳国立公園の見学	
マイクバスで移動し、自然回廊の活用も可能です。	
<b>《行程》</b>	
8:30	○ 高山駅西口ロータリー発 ..... 集合 / 出発
	○ 中部山岳国立公園 奥飛驒ビジターセンター ..... 奥飛驒ビジターセンター、中部山岳国立公園の解説 映像視聴 自由見学など
	○ 昼食 ..... 昼食は事前予約(実費負担)
	○ 平湯大滝 ..... 散策・見学(解説) ※ 雨天時は中止
	○ 中尾地熱発電所 ..... 発電所の見学
15:30	○ 高山駅西口ロータリー着 ..... 解散



ESDダイアログ 2024

# 山と水と人間と

～ 飛騨高山からのESD発信～

2024年11月22日(金)～23日(土) @ 飛騨高山

豊かな自然や景観など自然資産を活用したESD(持続可能な開発のための教育)ダイアログを開催します。自然保全活動、観察会、観光などESD活動や環境学習活動の人づくり・地域づくりの学び合いの場に参加しませんか。  
様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsにご興味のある方、参加をお待ちしています。

## 1日目 ESDダイアログ

日時 11月22日(金) 10:30-15:15

会場 飛騨高山まちの博物館 研修室  
岐阜県高山市上一之町75番地

## 2日目 エクスカーション

日時 11月23日(土) 8:30-15:30

場所 中部山岳国立公園の見学  
出発・解散：高山駅西ロータリー

〈 ESDダイアログのプログラム及びエクスカーションの行程は、裏面をご覧ください 〉

### 参加申込方法

- **申込方法** 参加申込フォームからお申し込みください。  
<https://forms.gle/rUCBjP6h9ubG3j3q8>

ウェブサイトからも申込できます。

中部 ESD センター

申込締切：11月19日(火)必着  
※ 1日目または2日目のみの参加も可能です。

- **参加費** 参加は無料です。  
※ 宿泊は各自で手配願います。  
※ 2日目の昼食は実費となります。

- **お問合せ** 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)  
E-mail: [office@chubuesdcenter.jp](mailto:office@chubuesdcenter.jp)



参加申込フォーム



写真「飛騨高山の古い町並」  
提供：(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会

背景写真「鏡池より」提供：中部山岳国立公園 奥飛騨ビジターセンター

主催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)  
後援：高山市 高山市教育委員会

ESDダイアログ 2024  
山と水と人間と ～飛騨高山からのESD発信～

1日目 ESDダイアログ 11月22日(金)10:30～15:15 飛騨高山まちの博物館\* 研修室

\*岐阜県高山市上一之町75番地(JR高山駅東口より徒歩約20分) <https://www.city.takayama.lg.jp/machihaku/1001018.html>

《プログラム》

挨拶 見山 政克氏 高山市教育長

挨拶 環境省中部地方環境事務所

第1部 自然資産とESD

基調講演①「中部山岳国立公園 ～自然の保全と活用～」

島 充明氏 環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官

話題提供 田中 裕氏 一般財団法人 飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事

岩塚 久案子氏 NPO法人 飛騨高山わらべうたの会 理事長

鈴村 仁孝氏 一般社団法人 ふるさと体験飛騨高山 事務局長

基調講演②「自然資源を活かしたESDと地域づくり」 水谷 瑞希氏 信州大学教育学部 准教授

…… 昼休憩 ……

第2部 ESD活動報告

高山市立三枝小学校 4年生のみなさん

高山市立朝日中学校 1年生のみなさん

岐阜県立高山工業高等学校 建築インテリア工学科主任 梶井 真也 教諭

第3部 パネルディスカッション

パネリスト(予定) 安井 慶一氏 高山市教育委員会

島 充明氏 環境省平湯管理官事務所 国立公園管理官

田中 裕氏 一般財団法人 飛騨山脈ジオパーク推進協会 常務理事

岩塚 久案子氏 NPO法人 飛騨高山わらべうたの会 理事長

鈴村 仁孝氏 一般社団法人 ふるさと体験飛騨高山 事務局長

コメンテーター 水谷 瑞希氏 信州大学教育学部 准教授

コーディネーター 原 理史 中部地方ESD活動支援センター

2日目 エクスカーション 11月23日(土) 8:30～15:30 中部山岳国立公園の見学

マイクロバスで移動。  
自家用車の利用も可能です。

《行程》

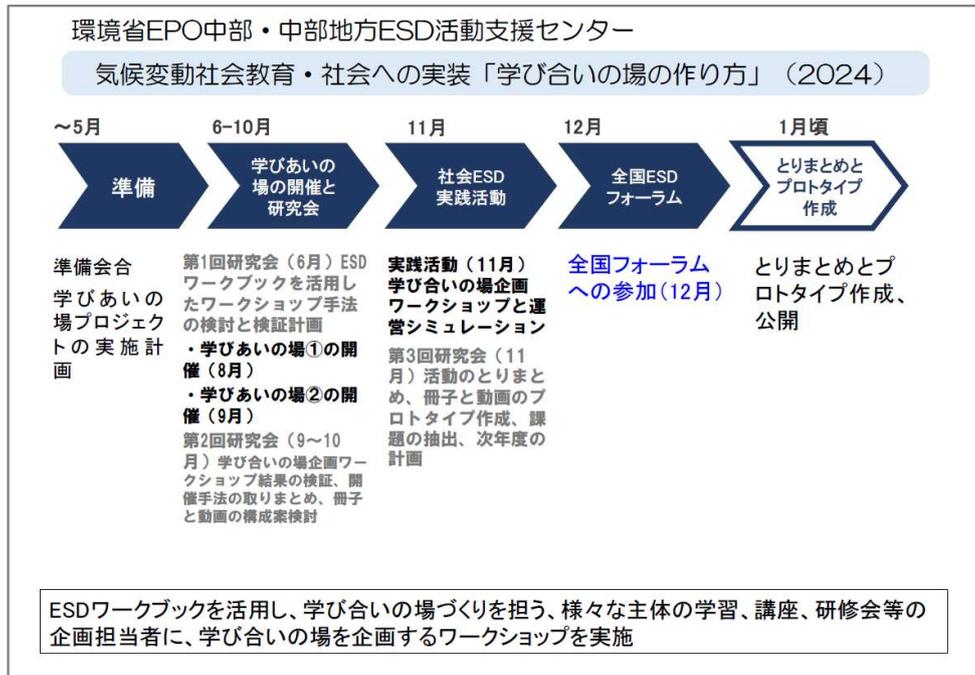
- 8:30 ○ 高山駅西口ロータリー発 …… 集合 / 出発
- 中部山岳国立公園 …… 奥飛騨ビジターセンター、中部山岳国立公園の解説
- 奥飛騨ビジターセンター …… 映像視聴  
自由見学など
- 昼食 …… 昼食は事前予約(実費負担)
- 平湯大滝 …… 散策・見学(解説) ※ 雨天時は中止
- 中尾地熱発電所 …… 発電所の見学
- 15:30 ○ 高山駅西口ロータリー着 …… 解散

## (2) 多様な主体の連携促進、交流機会の提供（学び合いプロジェクト）

### ア 活動計画の作成

- 中部エリアの「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の今年度の企画資料として、学び合いプロジェクト有識者検討会（全3回）、学び合いの場（全2回）、実践活動（全1回）を実施するための活動計画を作成した。
- 活動計画は、有識者検討会で協議を行ったうえで確定とした。

#### 【作成した活動計画】



学び合いプロジェクト有識者検討会		学び合いの場①②と実践活動										
<p>学び合いプロジェクト有識者検討会 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員【オブザーバー】 環境省 中部地方環境事務所環境対策課 【事務局】 清本三郎 EPO中部統括</p>		<p>目的: 学び合いの場を企画するための方法の検証</p>										
<table border="1"> <tr> <td>富山</td> <td>6/5</td> <td>ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と検証計画</td> </tr> <tr> <td>福井</td> <td>9～10月</td> <td>学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討</td> </tr> <tr> <td>名古屋</td> <td>11月</td> <td>活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画</td> </tr> </table>		富山	6/5	ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と検証計画	福井	9～10月	学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討	名古屋	11月	活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画	<p>学び合いの場①②</p> <p>・学び合いの場① 2024年8月 大学ゼミと連携した学生向け、 学び合いの場企画ワークショップ &lt;学び合い参加者&gt; 愛知教育大学大鹿先生とそのゼミ生を想定 学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</p> <p>・学び合いの場② 2024年9月 地域温暖化防止活動推進センター（温セ）と連携した温セ職員・推進員向け、学び合いの場企画ワークショップ &lt;学び合い参加者&gt; 地域地球温暖化防止活動推進センター（中部ブロック7県の合同研修） 学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</p>	
富山	6/5	ESDワークブックを活用したワークショップ手法の検討と検証計画										
福井	9～10月	学び合いの場企画ワークショップ結果の検証、開催手法の取りまとめ、冊子と動画の構成案検討										
名古屋	11月	活動のとりまとめ、冊子と動画のプロトタイプ作成 課題の抽出、次年度の計画										
		<p>実践活動 学び合いの場を企画、運営する活動の実装</p> <p>2024年11月 坂井市生活環境部環境推進課と連携した、学び合いの場企画ワークショップと運営シミュレーション &lt;学び合い参加者&gt; 社会教育主事や指導的な市民を対象に想定 学び合いプロジェクト有識者検討会メンバー</p>										

#### 学び合いの場づくりワークショップの構成（たたき台）

時間	項目	内容	備考
20～40分	インプット 学び合いの場の重要性	・ ESDは人づくり＝地域づくり ・ 社会教育としての役割 ・ ローカルSDGs実現に必要なこと	講演形式
30～60分	ワークショップ1	ペルソナワークショップ 立場の違いから「学び合いの場」の役割を考える。	グループワークショップ
30～60分	ワークショップ2	「学び合いの場づくり」ワークショップシートを用いて「学び合いの場」を企画する。	グループワークショップ
10～30分	共有と相互評価	作業結果を発表し相互評価を行う	

- 我が事化するための構成上の留意点
  - ・ 「学び合いの場」のテーマを絞る。
  - ・ ペルソナの配役を参加者が想像できるように配慮する（身近にいる人など）
- 時間配分の留意点
  - ・ ワorkshop1, 2は同時進行をすることも検討する。

## イ ノウハウ共有と推進に関する方策の検討

- 学び合いプロジェクトにおけるノウハウ共有と推進に関する方策を検討する場として、全国センターが開催する次表の会合に出席した。

区分	開催日	開催方法	会場	実施内容等
作業部会	第1回 7月25日	リアル	青山ブックセンター (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話題提供: 気候変動教育に関する最新動向(白井先生)</li> <li>● 話題提供: 気候変動教育に関する最新動向(遠藤先生)</li> <li>● 学び合いプロジェクト説明</li> <li>● 意見交換: R6、R7 学び合いプロジェクトの成果のまとめ方について</li> </ul>
	第2回 2月25日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2回作業部会のスケジュール等の説明</li> <li>● 学び合いプロジェクトの説明</li> <li>● 意見交換: 学び合いプロジェクトの今後の進め方について</li> </ul>

## ウ 学び合い（勉強会・意見交換会、ワークショップ等）の実施

### (ア) 第1回 学び合いプロジェクト有識者検討会

#### ①日時

- 2024年6月5日(水) 15:30~17:00

#### ②会場

- 富山県民会館 402号室(富山県富山市)

#### ③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
縄野 正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO中部統括

#### ④協議項目

- 学び合いプロジェクト計画について
- 学び合いの場づくりワークショップの構成について



## (イ) 第2回 学び合いプロジェクト有識者検討会

### ①日時

- 2024年9月18日(水) 13:00~14:45

### ②会場

- EPO 中部 (愛知県名古屋市)

### ③出席者

古澤 礼太	中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 事務局長
原 理史	中部地方ESD活動支援センター
猪岡 貴光	オブザーバー、環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長
縄野 正衡	オブザーバー、環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括

### ④協議項目

- 学び合いの場①についての報告
- 学び合いの場づくりワークショップの構成の再検討

